横浜みどりアップ計画５か年の評価・提案

～横浜みどりアップ計画市民推進会議　2023 年度報告書～

目　次

１　はじめに 1
２　横浜みどりアップ計画と市民推進会議 2
(1) 横浜みどりアップ計画
(2) 横浜みどりアップ計画市民推進会議
３　市民推進会議の活動実績 5
(1) 活動の概要
(2) 活動の詳細内容
①市民推進会議（全体会議）
②施策別専門部会
③広報・見える化部会
④調査部会（現地調査）
４　横浜みどりアップ計画　５か年の評価・提案 15
◆計画の体系
◆各計画の柱のハイライト
◆評価・提案の概要
(1) 計画の柱１　市民とともに次世代につなぐ森を育む 21
施策１　樹林地の確実な保全の推進
施策２　良好な森を育成する取組の推進
施策３　森と市民とをつなげる取組の推進
(2) 計画の柱２　市民が身近に農を感じる場をつくる 31
施策１　農に親しむ取組の推進
施策２　地産地消の推進
(3) 計画の柱３　市民が実感できる緑や花をつくる 41
施策１　市民が実感できる緑をつくり、育む取組の推進
施策２　緑や花に親しむ取組の推進
(4) 効果的な広報の展開 50
市民の理解を広げる広報の展開
５　市民推進会議委員名簿 55
６　市民推進会議委員からのコメント 58
７　市民推進会議広報誌「Yokohama みどりアップ Action」、
「森づくり体験会」の案内チラシ 64

1　はじめに

この報告書は、第３期「横浜みどりアップ計画」の５か年の事業・取組に対する「横浜みどりアップ計画市民推進会議」による評価・提案をまとめたものです。

横浜みどりアップ計画では、市民税の超過課税である横浜みどり税を財源の一部として活用し、樹林地や水田の保全、身近な緑の創出など、様々な緑の保全と創造に取り組んでいます。

市民推進会議は、横浜みどりアップ計画の取組に対して市民目線で評価・提案を行うための組織であり、現地調査や、施策別の各部会による検討などの活動を行っています。

2023 年度は第３期横浜みどりアップ計画の最終年度であり、現地調査も交えながら森・農・緑化という分野の垣根を越えた幅広い意見交換を行い、５か年の評価・提案をまとめました。

また市民推進会議では、横浜みどりアップ計画の取組を市民に分かりやすくお伝えするための活動にも力を入れており、市民推進会議が発行する広報誌「Yokohama みどりアップ Action」は、広報・見える化部会のメンバーが自ら取材し、市民目線で感じた緑の魅力を伝えています。2023 年度に発行した第９号は、現メンバーで最後の広報誌となりました。集大成として、「つなげていこう　みどりの Action」をテーマに、横浜みどりアップ計画のこれまでを振り返るとともに、市民が緑に対して Action を起こすきっかけとなるような内容に仕上がりました。市民が自分事としてこのような活動に取り組むことこそ、大変に意義ある「Action」なのです。

横浜はみなとみらいなどの都心臨海部が注目されることが多いですが、市全体を見渡せば、森や田園から街なかの緑まで、多様なみどりに溢れています。そのすべてが市民にとってのキャンパスであり、そのみどりを体験し、楽しみながら暮らせる都市なのです。

これまでの横浜みどりアップ計画では、みどりを増やし、保全することに重点を置いてきました。2024 年度から始まる新たな横浜みどりアップ計画では、その「市民の大きな財産としてのみどり」にどう向き合っていくかを考える必要があります。森・農・緑化という枠組みを越え、「みどり」としてトータルに進めていけば、より多くの市民の暮らしに寄り添い、多様性に富んだみどりを育むことができるでしょう。市民推進会議の存在は、環境先進都市・横浜市民のグリーン・エコ・ライフの充実と緑のまちづくり施策の市民目線でのリードに大きな役割を果たしてきました。

2027 年に本市瀬谷区で開催される国際園芸博覧会 GREEN×EXPO 2027 でも、本市のみどりアップ計画の成果と横浜市民の積極的参画と、アクティブな半年間となることを心から期待しております。

横浜みどりアップ計画市民推進会議
座長　進士　五十八

2　横浜みどりアップ計画と市民推進会議

(1)　横浜みどりアップ計画

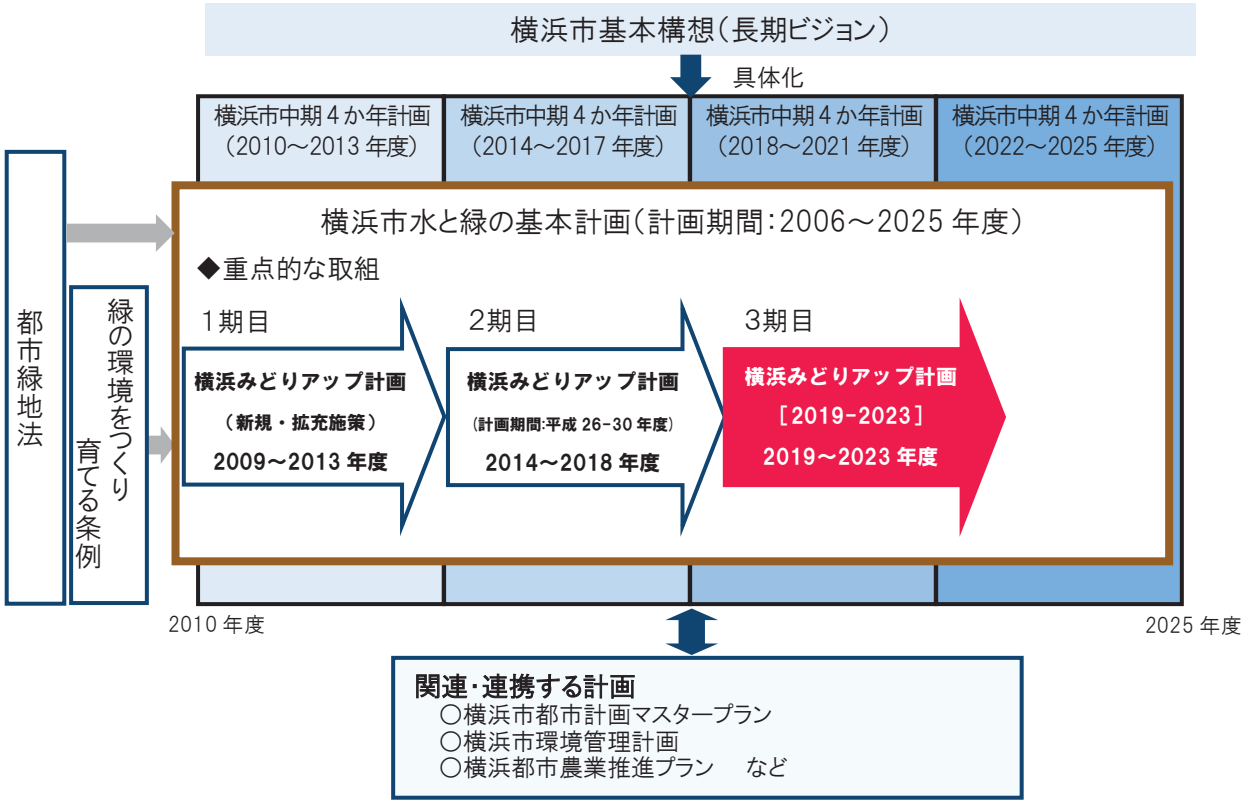
ア　位置付け

横浜市は、大都市でありながら、市民生活の身近な場所にまとまった規模の樹林地や農地などがあり、また、起伏に富んだ地形から、変化に富んだ水や緑の環境を有しています。この緑の環境を生かし、次世代へ引き継いでいくため、市は2025年度を目標年次とした「横浜市水と緑の基本計画」を2006年に策定し、計画に基づき長期的な視点から「横浜らしい水・緑環境の実現」に向けた取組を展開しています。

１期目となる「横浜みどりアップ計画（新規・拡充施策）」は、2008年度までの取組を強化・充実するため2009年度から2013年度までの５か年の事業計画として策定されました。また、「横浜みどり税」は、取組を進めるための重要な財源として2009年度から導入されました。

緑の保全や創造は長い時間をかけて継続的に取り組むことが重要であることから、２期目となる「横浜みどりアップ計画（計画期間：平成26-30年度）」が策定されました。

さらに、２期目の取組の成果や課題、市民意見募集結果などを踏まえ、３期目となる「横浜みどりアップ計画［2019-2023］」が策定されました。



【図】横浜みどりアップ計画［2019-2023］の位置付け

イ　横浜みどりアップ計画[2019-2023]の構成

2019年度より、3期目の「横浜みどりアップ計画」に基づき、「みんなで育む　みどり豊かな美しい街　横浜」を理念とし、5か年の目標を設定しました。目標の実現に向け、横浜みどりアップ計画では、「市民とともに次世代につなぐ森を育む」「市民が身近に農を感じる場をつくる」「市民が実感できる緑や花をつくる」を3つの柱とした取組と効果的な広報を推進しています。

計画の理念　みんなで育む　みどり豊かな美しい街　横浜

5か年の目標

1　緑の減少に歯止めをかけ、総量の維持を目指します

緑地保全制度による指定が進むことで樹林地の担保量が増加、水田の保全面積を維持、市街地で緑を創出する取組が進展　など

2　地域特性に応じた緑の保全・創出・維持管理の充実により緑の質を高めます

森の保全管理など緑の多様な機能や役割を発揮する取組の進展、緑や花の創出により街の魅力・賑わいが向上　など

3　市民と緑との関わりを増やし、緑とともにある豊かな暮らしを実現します

森に関わるイベントや農作物の収穫体験、地域の緑化活動など、市民や事業者が緑に関わる機会が増加　など

計画の柱 1
市民とともに次世代につなぐ森を育む

森（樹林地）の多様な機能や役割に配慮しながら、緑のネットワークの核となるまとまりのある森を重点的に保全するとともに、保全した森を市民・事業者とともに育み、次世代に継承します。

計画の柱 2
市民が身近に農を感じる場をつくる

良好な景観形成や生物多様性の保全など、農地が持つ環境面での機能や役割に着目した取組、地産地消や農体験の場の創出など、市民と農の関わりを深める取組を展開します。

計画の柱 3
市民が実感できる緑や花をつくる

街の魅力を高め、賑わいづくりにつながる緑や花、街路樹などの緑の創出に、緑のネットワーク形成も念頭において取り組みます。また、地域で緑を創出・継承する市民や事業者の取組を支援します。

＋

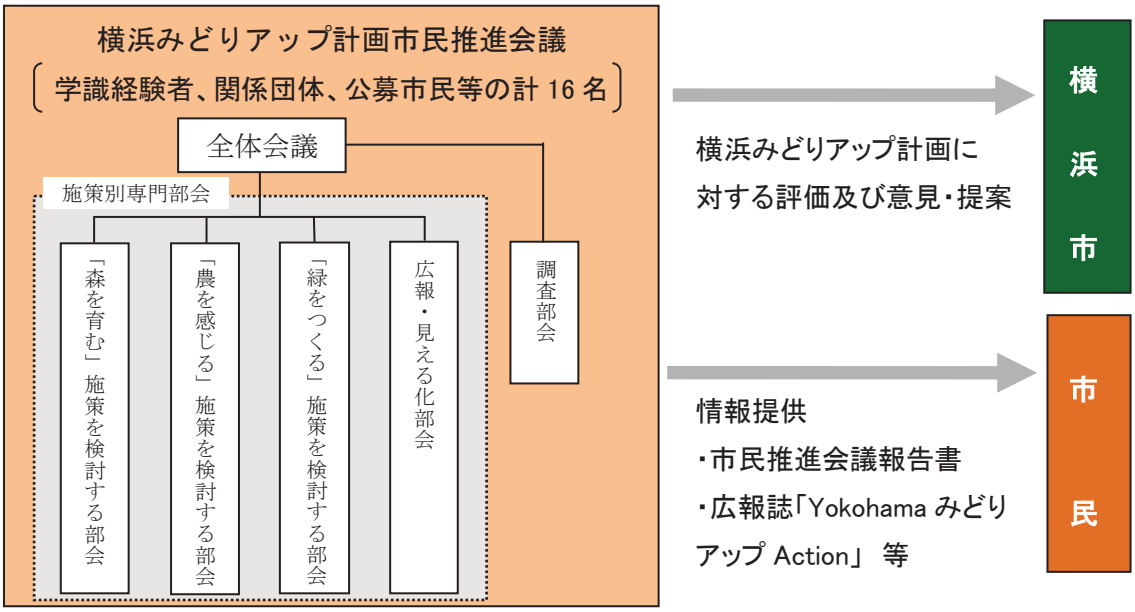
効果的な広報の展開

(2) 横浜みどりアップ計画市民推進会議

横浜みどりアップ計画市民推進会議は、市民参加の組織により、横浜みどりアップ計画の評価及び意見・提案、市民への情報提供等を行うことを目的として、2009年に設置され、2012年からは条例設置の附属機関に位置付けられました。これまでに全体会議や施策別専門部会の開催に加え、参加市民を公募したオープンフォーラムや現地調査を実施し、市民意見の聴取にも努め、計画の評価・提案を行ってきました。

横浜みどりアップ計画を推進するうえで、市民推進会議の取組は大きな役割を果たしており、3期目の横浜みどりアップ計画についても継続して活動することとなりました。

2019年度からは新たな委員も含め、学識経験者や関係団体、町内会・自治会代表、公募市民の計16名で活動しました。(55頁に委員名簿を掲載)



横浜市附属機関設置条例第2条第2項本文:

附属機関(※)の担任する事務は、別表担任事務の欄に掲げるとおりとする。

別表(抜粋)

執行機関	附属機関	担任事務	委員の定数
(中　略)			
市長	横浜みどりアップ計画市民推進会議	横浜市域の樹林地及び農地の保全並びに緑化の推進を図ることを目的とする横浜みどりアップ計画に係る施策及び事業についての情報提供、評価等に関する事務	20人以内
(以下省略)			

※附属機関とは、法律又は条例に基づき設置する機関で、市長等の執行機関の要請により、行政執行のために必要な審査、審議、調査等を行うことを職務とする機関。

3 市民推進会議の活動実績

(1)活動の概要

市民推進会議の主な活動は、「横浜みどりアップ計画に対する評価及び意見・提案」と「市民への情報提供」の2つです。

ア 横浜みどりアップ計画に対する評価及び意見・提案

【2023 年度報告書】

2023 年 10 月

調査部会
施策の内容について現地で調査を行い、現状を把握、検証

⇒

2024 年1月

全体会議
・横浜みどりアップ計画[2019-2023]の施策・事業を把握し、活動内容を検討 ・報告書の骨子を検討

⇒

2024 年1月～2月

施策別専門部会
計画の柱ごとに事業内容を把握し、意見交換を行う

⇒

2024 年3月

全体会議
報告書の総まとめ

⇒

2023 年度報告書の発行

イ 市民への情報提供

2023 年 7 月・10 月

広報・見える化部会
・広報誌「Yokohama みどりアップ Action」の取材、記事作成、編集

⇒

・Yokohama みどりアップ Action の発行

(2) 活動の詳細内容

ア 市民推進会議（全体会議）

市民推進会議の全体会議において、部会の構成や調査の実施など年間の活動内容を確認し、横浜みどりアップ計画の内容、進捗状況について説明を受けて、質疑応答、意見交換を行いました。

(ア) 第 40 回市民推進会議（2024 年 1 月 19 日）

・横浜みどりアップ計画５か年の進捗状況について

・横浜みどりアップ計画市民推進会議　2023 年度報告書骨子案について

(イ) 第 41 回市民推進会議（2024 年３月 19 日）

・横浜みどりアップ計画５か年進捗状況および横浜みどりアップ計画市民推進会議 2023 年度報告書（案）について

・横浜みどりアップ計画市民推進会議　座長選出について

イ 施策別専門部会

計画の柱ごとに施策別専門部会を設置し、事業分野ごとに詳細に説明を受け、意見交換を行いました。

※2014 年度からは「広報部会」、「見える化部会」を合わせ、「広報・見える化部会」を設置しているため、「効果的な広報の展開」事業に対する評価・提案については、「広報・見える化部会」にて実施しています。

(ア) 第17回「森を育む」施策を検討する部会（2024年２月５日）

・「森を育む」 施策の評価・提案について

(イ) 第17回「農を感じる」施策を検討する部会（2024年２月７日）

・「農を感じる」 施策の評価・提案について

(ウ) 第17回「緑をつくる」施策を検討する部会（2024年２月29日）

・「緑をつくる」 施策の評価・提案について

「森を育む」施策を検討する部会

「農を感じる」施策を検討する部会

「緑をつくる」施策を検討する部会

ウ 広報・見える化部会

2014年度からは「広報部会」、「見える化部会」を合わせ、「広報・見える化部会」を設置しているため、施策別専門部会として横浜みどりアップ計画の広報について評価・提案を行うとともに、横浜みどりアップ計画や横浜みどり税についての情報提供のあり方の検討や広報誌の編集を行っています。

広報誌「YokohamaみどりアップAction」では、横浜みどりアップ計画の取組が進んでいる現場を取材した上で、緑の魅力をいかに伝え、「行ってみよう」「見つけてみよう」と思えるような内容とするために毎号議論を重ね、市民目線の現場レポートを作り上げています。2023年度は第9号を発行しました。駅及び主要な公共施設のPRボックスや、各区役所・土木事務所・公園緑地事務所等の公共施設で配布するとともに、市のホームページでも公開しています。

（ア）第54回広報・見える化部会（2023年7月26日）

・YokohamaみどりアップAction９号記事内容について

（イ）Yokohama みどりアップ Action 第9号取材（2023 年9月 15 日）

・テーマ:みどりアップ計画のこれまでと今後　（旭区　里山ガーデン）

（ウ）第55回広報・見える化部会（2023年10月24日）

・YokohamaみどりアップAction　９号原稿案について

（オ）第 56 回広報・見える化部会（2024 年1月 30 日）

・広報事業の評価・提案について

Action 第9号取材の様子

広報・見える化部会

2023 年度に発行した「Yokohama みどりアップ Action」

○ YokohamaみどりアップAction 第９号

《発 行 月》 2024年３月

《発行部数》 18,000部

《テ ー マ》 みどりアップ計画のこれまでと今後
（旭区　里山ガーデン）

里山ガーデンで考える　みどりアップ計画のこれまでと今後

横浜みどりアップ計画に第１期から携わる（公財）横浜市緑の協会の橋本理事長に、「横浜みどりアップ計画」のこれまでと今後の展望について、里山ガーデンでお話を伺ってきました。

エ　調査部会（現地調査）

＜第23回調査部会＞

日　　時　　2023年10月31日（火）　午後１時00分～午後４時40分

参 加 者　　委員11名

調査場所　　洋光台五街区みどりアップ委員会（磯子区）

上郷市民の森（栄区）

環状３号線（栄区、戸塚区）

ハマヤク農園（戸塚区）

（ア）　市民と連携した緑のまちづくりに取り組む現場を調査

（洋光台五街区みどりアップ委員会）

磯子区洋光台五街区周辺地区で、市民との協働により緑化を進めている現場を見学しました。取組を進める洋光台五街区みどりアップ委員会の方々から、緑化計画や活動の概要、これまでの取組などについて説明を受けました。

プランターに設置された子どもたちの絵

アジサイ花壇への灌水装置の視察

＜委員の感想や主な意見＞

〇当地区の地域緑のまちづくり事業の計画策定の手伝いをしました（2018 年度）。2020 年度で事業は終了しましたが、その後も組織を残ししっかりと継続しているのが確認できて、うれしく思いました。

〇市営住宅の建替えが始まり、緑化事業で植えたアジサイなどを移植させ、建物完成後に元に戻す約束をとりつけた話を聞いて、地域の皆様の緑化への思い入れの強さを感じました。

〇みどりアップ計画のポップが多数配置されており、その点は今までの視察先で一番目立っていたように感じます。市の事業であることが明確で、住民の認知も高いのではないでしょうか。

〇地域住民の皆様の日々の植木、花の栽培の努力に感心致しました。本年の水不足の中の灌水、除草作業、草花も日々観察し、花がらを取り除く等しないと良い花が咲きません。努力に感心致しました。住民の方々と小中学校（生）、地域ケアプラザの皆様での五街区

周辺地区のみどりアップ計画に敬意を表します。アジサイ BOX 等への雨水利用の灌水施設（作業）は勉強になりました。水道、及び水道代節約にもなり大変すばらしい事と思います。

〇洋光台五街区みどりアップ委員会の方々の積極的に緑豊かな地域にしようという思いが伝わってきました。小学校・中学校との連携が良い。小学生が自分たちの住む町を緑で美しく明るくしよう（ゴミなどをなくして）美しくしようという気持ちがよく伝わりました。貯水タンクもよい取組。雨水を活用して環境にもよいですね。

〇洋光台五街区みどりアップ委員の方々の組織づくりと環境整備への計画がしっかりと行われていることに感心いたしました。特に地域ケアプラザと、周辺小中学校との連携が素晴らしいと思いました。

また、雨水利用による灌水システムは地形を生かし素晴らしいアイディアだと思いました。今年のような猛暑においても、この灌水システムが大いに役立っていることが元気な植物を見ても伝わってきました。

〇横浜市営団地の建替え時期を迎え、自治会の皆様が世代を超えて、また学校やケア施設等を含めて広範囲にきれいに草花が植えられていることから「地域の絆」を緑化事業で深められているとうかがえました。

草花が中心で花のない時期に苦慮されているようでしたが、色に配慮した地被類や、冬に実をつける草本等を入れられても良いかと思われました。

〇地域の皆様の熱意をとても感じました。まちづくりの工夫には参考となる点が多いと思う。

〇花の手入れで住民のつながりができているのがよいと思った。

水やり・雑草取りは人手が大変だと思う。楽しんで続けられるよう工夫して若い人も参加していってほしい。

雨水タンクはよいアイディアで、広がっていくとよい。

（イ） 森の多様な機能に着目した森づくりの現場を調査（上郷市民の森）

栄区東部に位置する上郷市民の森を視察しました。

概要、維持管理方法の説明

野草紹介看板

＜委員の感想や主な意見＞

〇住宅地に囲まれていたり、高圧線が通っている市民の森の立地特性を生かして、野草園・昆虫園として特色を出しているのが知れてよかった。しかも、そうした身近な野草などを観察できるように、愛護会だけでなく、ボーイスカウトが活動しているのはめずらしく、すばらしいと思いました。

〇上空に鉄塔がそびえる市民の森もめずらしいように思いますが、その分手入れも定期的に対応される点も興味深いです。ビューポイントからの眺めはいいですね。
みどりアップのポップもどこかに設置されるといいと思います。
途中で、市民の森だから名木古木の指定ができた…とのことでしたが、その制度的要因がわかるとうれしいです。

〇生物多様性を重視した森との事、都市部の中での重要な自然の森として、地域住民の方々に多く利用されているとの事、大変良いと思いました。見晴台で富士山が見えるとの事、晴天の時にまた来たいと思いました。モミジ道での色づき姿はまだ気温が高い為みられませんが、色づいたモミジ道も歩いてみたいです。子ども達が植えたクヌギが子どもの成長と共に大きくなり、秋の紅葉やたくさんのどんぐりの実ができる事が楽しみです。

〇いつものなじみのある森でしたが、野草は単に生えているのではなく地形を生かして育てているということを改めて知りました。めずらしい野草を見ることができました。
森の会の方の手作りの看板、ボーイスカウトの子の立て札など、ほっとする感じでいいですね。うっそうとしているところもあるので、もう少し手入れが必要では？と感じるところもありました。

〇名前は、よく知っていましたが、実際に訪れたのは初めてになります。
歩きながら植物を見ると、森でありながら、昔そこに人が住んで（入り込んでいた）場であることがわかり、また見上げると見える高圧線との共存（剪定管理）など森を生かしつつ、管理している様子がよくわかりました。
山野草を生かし、虫のために剪定の仕方を変える、倒木の危険性がある樹木の管理の仕方など技術と知恵を生かした森づくりをしていることを知ることができました。

〇山頂は富士山の見える眺望を持ち、送電線下の草地が管理されていることで生物多様な

環境の貴重な市民の森であると思いました。
保全管理計画の検討会に市民ボランティアやボーイスカウト、愛護会の皆さまも当初から加わっていることで、それぞれ森の利用を考えた計画とし、よく管理されていると思いました。
〇里山の珍しい植物も増えているようで、所々に小さな看板がありました。この森の保全活動には、ボーイスカウト団員の協力もあり、ドングリから育てたコナラやクヌギも成長していました。良好な環境が維持されていくことでしょう。
〇横浜市の緑の保全の基礎が良く分かる市民の森であった。
〇長年維持されてきたことはすばらしい。

（ウ）　街路樹による良好な景観の創出・育成現場を調査
（街路樹の良好な維持管理　環状3号線）
環状３号線の街路樹が良好に維持管理されている様子を車窓から見学し、事業説明を受けました。

＜委員の感想や主な意見＞
〇上郷市民の森からハマヤク農園に移動する際に、環状3号線、同4号線の街路樹の説明を受けたが、多様な樹種が混植されている印象を持った。
〇街路樹をめぐるエピソードは普段中々接することが無いものですが、担当者の皆様の思いやアイディアが盛り込まれていて、おもしろいです。市民がこうした情報に触れる機会があると望ましいです。
〇どの街路樹も良く整枝、剪定が実施されており、２～３年に1度の手入れとの事、これからもこの姿を維持・管理の継続ができることを望みます。
〇職員のお話に感動しました。街路樹への愛を感じます。
〇管理目標樹形図から市内の樹木が計画的に管理されている様子が大変よくわかりました。またそこにみどり税が使われることにより、樹木や景観によりよい剪定ができることに役立っているということを知ることができたことが今回の視察に参加できてよかったと思いました。
〇市内の色々な街路樹の紹介や持続的な維持管理の説明を聞き、街路樹の役割を改めて確認できました。
〇説明がとても参考になった。
〇街路樹のきれいな剪定をなるべく多くの街路樹にやってほしい。
図鑑がとてもよい。役立ちます。

（エ） 市民が農を楽しめる公園を調査（ハマヤク農園）

戸塚区深谷町に位置する農園付公園の現場を見学しました。園内の分区園の仕組みや、近隣の大学との協働について説明を受けました。

園内の農園を視察

近隣大学と市民の協働農園

＜委員の感想や主な意見＞

〇ドリームハイツのバスターミナルの脇にある農園で、大勢の方に見られる農園であるためか、全体的によく手入れされ、きれいな印象でした。
横浜薬科大のネーミングライツを導入した農園付公園（ハマヤク農園）だけあって、思いのほか薬大の学生に授業の一環で活用されているのが初めて知れた。（協働農園や団体利用農園は特に薬大が利用している。）

〇農園付公園のネーミングライツ制度はうまく地域との連携が機能する要素になっているように見えます。結構広いです。
横浜国立大の近くにも農園付公園がほしいです。

〇農園付公園として、多くの皆様が色々な思いでハマヤク農園に集まり、活動し、農作業をする姿が目に浮かびます。多種、多品目の野菜・花等を皆で楽しく栽培されている事は、心身の健康に大変良い事と思いました。行政の方々や御指導される方々の御努力も大変だと御推察致しました。

〇ドリームランドの跡地がこんな風に変わって市民が利用しているとは知りませんでした。薬科大学とのコラボでハーブが植わっているのはおもしろい。利用者の方々の畑もきれいに使っていますね。

〇市民農園、貸し農園などを利用したことがありましたが、これほどまでに整えられて、使いやすそうな農園は初めて見ました。バス停の近くの開けた場所にあることも魅力的です。
今後の高齢者世代の課題は、毎日外に出ること、出る理由が必要と言われていますが、このような貸し農園はまさに、外に出かけ身体を動かし、美味しいものを食べ、そして仲間づくりなどこれからの街に大事な取組になるのではと考え、増えていくとよいなと思いました。

〇隣接する横浜薬科大学が企画した市民参加型の薬用植物園もあり、地域住民の参加やイベントがやり易い公園になっています。この農園も倉庫棟の雨どいを利用した雨水貯留タンクの雨水を利用できるようにしていました。

〇コンパクトにまとめられた公園であった。葉っぴーの自販機がかわいい。
〇マンション群の中のオアシスのようで、よい場所に作られたと思います。
　利用率が高く、横浜市民の農への関心が高いことがわかります。

4　横浜みどりアップ計画　5か年の評価・提案

市民推進会議では、横浜みどりアップ計画の「市民とともに次世代につなぐ森を育む（「森を育む」）」、「市民が身近に農を感じる場をつくる（「農を感じる」）」、「市民が実感できる緑や花をつくる（「緑をつくる」）」の施策と、横浜みどりアップ計画を市民の皆さまに周知するための「広報・PR」について、現地調査で活動団体などからいただいた意見も踏まえて、評価・提案を行いました。

なお、横浜みどりアップ計画で進めている事業・取組には、横浜みどり税の導入時に定めた使途に沿って横浜みどり税を充当している事業・取組と、横浜みどり税を充当せずに進めている事業・取組がありますが、市民推進会議では市民の皆さまが負担している横浜みどり税を充当している事業・取組を中心に評価・提案を行いました。

◆計画の体系

●：横浜みどり税を充当している事業・取組

計画の柱１　市民とともに次世代につなぐ森を育む

- 施策１　樹林地の確実な保全の推進
  - 事業①　緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り　●
- 施策２　良好な森を育成する取組の推進
  - 事業②　良好な森の育成　●
  - 事業③　森を育む人材の育成　●
- 施策３　森と市民とをつなげる取組の推進
  - 事業④　市民が森に関わるきっかけづくり　●

計画の柱２　市民が身近に農を感じる場をつくる

- 施策１　農に親しむ取組の推進
  - 事業①　良好な農景観の保全　●
  - 事業②　農とふれあう場づくり　●
- 施策２　地産地消の推進
  - 事業③　身近に農を感じる地産地消の推進
  - 事業④　市民や企業と連携した地産地消の展開

計画の柱３　市民が実感できる緑や花をつくる

- 施策１　市民が実感できる緑をつくり、育む取組の推進
  - 事業①まちなかでの緑の創出・育成　●
- 施策２　緑や花に親しむ取組の推進
  - 事業②　市民や企業と連携した緑のまちづくり　●
  - 事業③　子どもを育む空間での緑の創出・育成　●
  - 事業④　緑や花による魅力・賑わいの創出・育成　●

効果的な広報の展開

- 事業①　市民の理解を広げる広報の展開

◆各計画の柱のハイライト

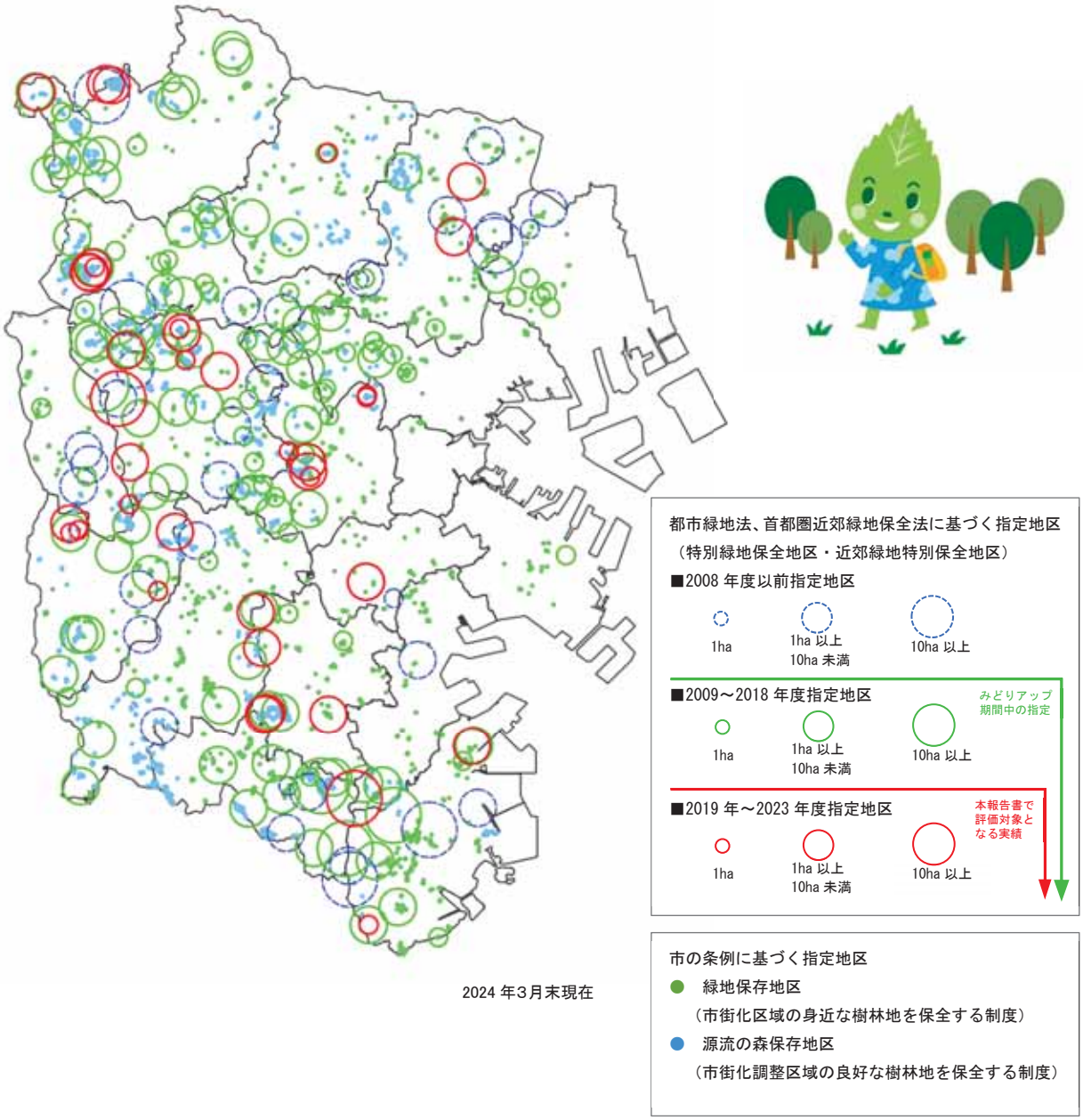
2023 年度の取組状況について、これまでの取組状況とあわせて振り返ります。

計画の柱1　市民とともに次世代につなぐ森を育む

緑地保全制度による指定の拡大が進んでいます

特別緑地保全地区などの緑地保全制度による指定は、緑のネットワークの核となるまとまりのある樹林地を中心に土地所有者へ働きかけを行い、2009 年度から 2023 年度の 15 年間で 1082.5ha、2023 年度は 32.1ha 指定されました。

＜緑地保全制度による指定の状況＞



計画の柱2　市民が身近に農を感じる場をつくる

農園の開設が進んでいます

野菜の収穫や果実のもぎとりなどを気軽に体験できる収穫体験農園、区画割りされた農園で本格的な農作業が出来る認定市民菜園や農園付公園など、様々な市民ニーズに合わせた農園の開設が進んでいます。

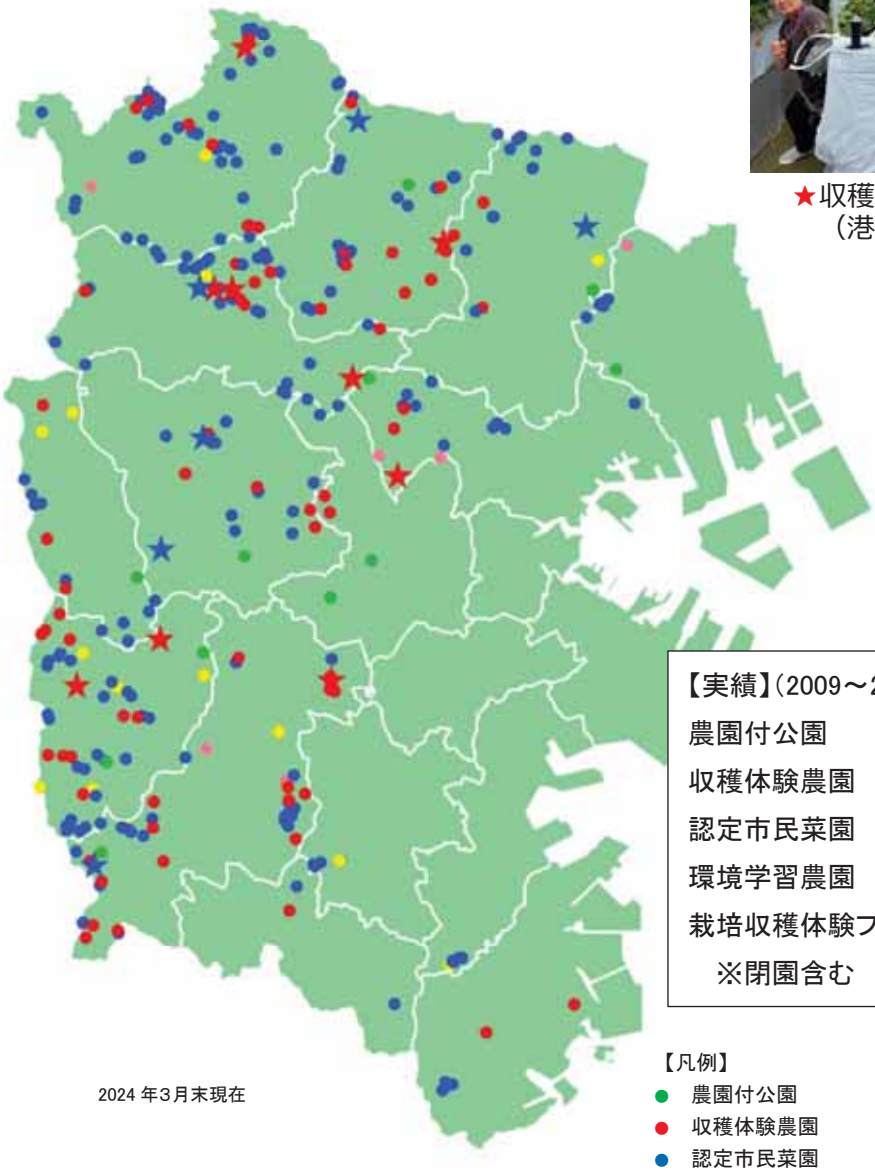
＜農園の開設状況＞

（2009 年度から 2023 年度の 15 年間）

★収穫体験農園
（緑区）

★収穫体験農園
（港北区）

★収穫体験農園
（神奈川区）



2024 年3月末現在

【実績】（2009～2023 年度）

農園付公園	11 か所
収穫体験農園	81 か所
認定市民菜園	217 か所
環境学習農園	17 か所
栽培収穫体験ファーム	7か所

※閉園含む

【凡例】
- 農園付公園
- 収穫体験農園
- 認定市民菜園
- 環境学習農園
- 栽培収穫体験ファーム
- ★ 2023 年度に開園した収穫体験農園
- ★ 2023 年度に開園した認定市民菜園

計画の柱3　市民が実感できる緑や花をつくる

緑のまちづくりが進んでいます

市内各地で様々な緑をつくる自主的な活動が行われ、2009 年度から 2023 年度の 15 年間で市内 67 地区において、魅力ある緑のまちづくりが進んでいます。2023 年度は新たに3地区で市と協定を締結、2024 年度から緑化に取り組みます。

＜地域緑のまちづくり実施地区一覧＞

緑園都市地区（泉区）

野庭団地地区（港南区）

※横浜みどりアップ計画の詳細な実績については、「5か年(2019 年度～2023 年度)の事業・取組の評価・検証」をご覧ください。

https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/midori-koen/midori_up/jigyou_houkoku.html

◆評価・提案の概要

「計画の柱１：市民とともに次世代につなぐ森を育む」については、樹林地の確実な保全の推進に関しては、コロナ禍により、土地所有者との面会が制限され指定の働きかけに支障が生じるなど、難しい対応を迫られた５年間でしたが、樹林地所有者への説明機会を増やすなどの工夫を行いながら進めることができています。次の５年間は、土地所有者への働きかけを積極的に行い、目標を達成することを期待します。

良好な森を育成する取組の推進のうち、樹林地維持管理助成事業に関しては、助成対象を拡充するなど土地所有者のニーズに柔軟に対応した結果、５年間の実績が目標を上回ったことは大きな成果です。人材育成については、「森づくり体験会」の拡大や、「よこはま森の助っターズ」のような新しい活動が始まりました。今後も、「よこはまの森ニュースレター」を始めとした情報提供に努め、市民の活動や楽しみの幅を広げてください。

森と市民とをつなげる取組の推進について、コロナ禍によりイベント実施を制限せざるを得ない状況が長く続きましたが、森の楽しみづくりに関するイベントの実績が目標を大きく上回る成果を挙げています。事業者向けのCSR活動については、今後、社会貢献活動の受入先としての樹林地の活用や、企業が森づくり活動の新たな担い手となりうる仕組みを検討するなど、企業と連携した様々な森の保全活用を一層推進してください。

なお、対象樹林地の小規模化など、新規指定及び買取りに関する課題や、既存樹林地の管理及び活用に関する課題があることから、各施策ごとではなく、横断的な視点から課題解決の検討を進めてください。

「計画の柱２：市民が身近に農を感じる場をつくる」については、農家への支援を引き続き進めながら、横浜の市民力を生かし、休耕地対策や、農を支援する取組の検討を望みます。また、みどりアップ計画の実績が着実に積みあがっている一方で、農地や担い手の減少が進んでいる現状があります。農業生産基盤の整備や担い手支援などの農業施策とみどりアップ計画の施策のバランスをしっかりと取りつつ、事業を推進してください。

地産地消に対する多様な市民ニーズに応えるために、はまふぅどコンシェルジュ同士や、地域の拠点となる地産地消サポート店などが相互に連携を深めることで、地域に密着した地産地消の取組が増えることを期待します。また子どもから高齢者まで、あらゆる世代で地産地消が展開されるよう、新しいニーズに応じた支援を期待します。

「計画の柱３：市民が実感できる緑や花をつくる」については、街の価値の向上等につながる緑の創出や地域で緑を創出・継承する市民や事業者の取組の支援が進められてきました。

市民が実感できる緑をつくり、育む取組の推進では、公共施設・公有地での緑の創出・育成や公有地によるシンボル的な緑の創出、並木の再生等について、街の価値向

上や地域の愛着につながるよう、引き続き取組を推進してください。

緑や花に親しむ取組の推進では、学校や市民、地域のニーズに応じた取組が展開されていき、より一層多様な参加者が増えていくことで各区・全市に取組や魅力ある緑花空間が広がっていくことを期待しています。

横浜で開催される GREEN×EXPO 2027 では、発信力のある横浜市ならではの緑や花の取組を推進していき、より一層の市民・企業の参加が広がり、環境先進都市としての横浜を世界にアピールしていくことを期待しています。

「効果的な広報の展開」については、「広報よこはま」や子ども向けの広報紙等への記事掲載など、幅広い世代にみどりアップ計画が伝わるような情報発信を継続するとともに、中高生向けの広報がより充実することを期待します。

また、電車やバス等の公共交通機関での情報発信の機会を増やしていることを評価します。引き続き、市民が集う場、市民の目に触れる場所での情報発信を継続して、みどりアップ計画の様々なメニューがより多くの人に伝わり、活動の広がりにつながるよう、効果的な発信の仕方を検討してください。

情報を発信するとともに、取組を進める中で寄せられる声やみどりアップ計画の取組に関する市民向けのアンケートの結果を分析し、取組に反映してください。

（1）計画の柱1　市民とともに次世代につなぐ森を育む

森（樹林地）の多様な機能や役割に配慮しながら、緑のネットワークの核となるまとまりのある森を重点的に保全するとともに、保全した森を市民・事業者とともに育み、次世代に継承します。

施策1　樹林地の確実な保全の推進

事業①　緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り　みどり税

●事業概要（計画書から抜粋）

市内に残る樹林地の多くは民有地であり、まとまりのある樹林地を保全して次世代に引き継ぐためには、土地を所有する方が、できるだけ持ち続けられるよう支援することが必要です。そこで、緑地保全制度に基づく指定により土地所有者へ優遇措置を講じることで、樹林地を保全します。

また、土地所有者の不測の事態等による、樹林地の買入れ申し出に対応します。

●実績

項目	2023 年度		5か年の実績	5か年の目標
	目標	実績		
取組（1）　緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り				
緑地保全制度による新規指定	60ha	32.1ha	176.9ha	300ha
土地所有者の不測の事態等による土地の買取り	（想定）22.4ha	8.7ha	75.6ha	（想定）113ha
保全した樹林地の整備	推進	69 か所	381 か所	推進

特別緑地保全地区に指定拡大された緑地
（港南区　野庭・上永谷町特別緑地保全地区）

緑地保全制度により買入れた緑地
（青葉区　奈良町西ノ谷特別緑地保全地区）

市担当者からのコメント（環境創造局緑地保全推進課※）

- 特別緑地保全地区をはじめとした各種制度の指定は、土地所有者の方々に直接お会いし、制度の趣旨やメリット等を説明し、ご納得いただくことから始まります。これまで、大規模な樹林地の土地所有者から順次働きかけを行い、指定にご協力をいただいてきたため、働きかけ対象の樹林地面積が小規模化している傾向があります。
- 2020 年度から、コロナ禍により土地所有者との面会が制限され、指定の働きかけに支障が生じていた時期の影響が続いているため、新規指定実績が伸び悩んでいます。そのような状況で、指定面積は、2019 年度 47.2ha、2020 年度 28.9ha、2021 年度 31.9ha、2022 年度 36.8ha、2023 年度 32.1ha、5か年合計では 176.9ha と目標を下回っています。
- 2023 年度は、JA 横浜と連携を強化し、緑地保全制度の指定により受けられる維持管理に関する支援や、固定資産税の減免等の優遇措置について、樹林地所有者に説明する機会を増やしました。
- 都市計画により永続的に緑地を保全する特別緑地保全地区（近郊緑地特別緑地保全地区を含む）は、5年間で新規に 18 か所を指定し、27 か所を拡張しました。2023 年度は新規に5か所を指定し、4か所を拡張しました。
- 樹林地の指定が進むなか、過去に指定の意向がなかった土地所有者への再度の働きかけが増えているため、指定にあたっての調整や課題の検討には時間を要しますが、今後もまとまりのある貴重な樹林地を保全するため、粘り強く事業を進めていきます。

※所属名は 2023 年度当時のものです。

◆施策1についての評価・提案

- 緑地保全制度による樹林地の指定については、働きかけ対象の樹林地面積が小規模化していること、特にこの5年間は、コロナ禍により、土地所有者との面会が制限され指定の働きかけに支障が生じていたことなどの理由から目標を下回る結果となりましたが、JA 横浜との連携強化により樹林地所有者への説明機会を増やすなどの工夫が見られました。今後も、引き続き関係機関との連携などを通じて土地所有者への働きかけを積極的に行い、目標を達成することを期待します。
- 不測の事態等による買取りについて、地権者の申し出があったものに対して引き続き着実に対応するとともに、制度の周知に関して、地権者への積極的な情報提供や丁寧な説明を、より一層進めてください。
- 樹林地の買取りが進むとともに、市が所有する樹林地およびその周辺の管理や市民が利用する場としての活用が今後の課題ですが、市民や企業等のニーズを踏まえ、検討を行い、まとまりのある貴重な樹林地を保全し、より良い形で次世代に引き継いでいけるように、引き続き取り組んでください。

施策2　良好な森を育成する取組の推進

事業②　良好な森の育成　みどり税

●事業概要（計画書から抜粋）

生物多様性の保全、快適性の確保、良好な景観形成、防災・減災など、森に期待される多様な機能が発揮できるように、利用者や樹林地周辺の安全にも配慮し、愛護会や森づくりボランティア、企業等様々な主体と連携しながら、良好な森づくりを進めます。

また、樹林地を所有する方が、できるだけ樹林地として持ち続けられるよう、緑地保全制度による指定地における維持管理の負担を軽減するための支援を行います。

●実績

項目	2023 年度		5か年の実績	5か年の目標
	目標	実績		
取組（1）　森の多様な機能に着目した森づくりの推進				
森の維持管理	推進	保全管理計画の策定：0か所 維持管理：221 か所	保全管理計画の策定：14 か所 維持管理：1007 か所	推進
取組（2）　指定した樹林地における維持管理の支援				
維持管理の助成	100 件	163 件	688 件	500 件

もえぎ野ふれあいの樹林（青葉区）

新治市民の森（緑区）

森づくりガイドライン等を活用した維持管理

作業前

作業後

維持管理の助成（栄区）

事業③　森を育む人材の育成　みどり税

●事業概要（計画書から抜粋）

市民や事業者と市の協働により森を育む取組を進めるため、森づくり活動に取り組む市民や団体を対象に、活動のための知識や技術に関する研修を実施し、森を育む「人」を育てます。また、森づくり活動を行う団体を対象に、活動に必要な支援を行います。

●実績

項目	2023 年度 目標	2023 年度 実績	5か年の実績	5か年の目標
取組（1）　森づくりを担う人材の育成				
森づくりを担う人材の育成	推進	研修の実施：14 回 体験会の開催：10 回	研修の実施：65 回 体験会の開催：44 回	推進
広報誌等での森づくり活動に関する情報発信	4回	4回	20 回	20 回
取組（2）　森づくり活動団体への支援				
森づくり活動団体への支援	30 団体	35 団体	167 団体	150 団体
森づくり活動団体への専門家派遣	4回	1回	17 回	20 回
チッパーの貸出し	推進	6か所	42 か所	推進

森づくりを担う人材育成
森づくり体験会（継続編）の様子
（青葉区　寺家ふるさとの森）

森づくりを担う人材育成
森づくり体験会（初級編）の様子
（港北区　綱島市民の森）

森づくりを担う人材育成
アドバイザー派遣
（緑区　長津田宿市民の森愛護会）

森づくりを担う人材育成
横浜市の森づくり塾
（緑区　新治市民の森）

市担当者からのコメント（環境創造局みどりアップ推進課）

- 樹林地管理においては、樹林地外周部の斜面を中心に安全面を考慮して剪定や伐採などを実施しました。横浜市の樹林地は住宅街に隣接していることが多く、周辺の安全にも配慮しながら森づくりを進めています。
- 森を利用する皆様に、身近な緑を実感していただける、快適性の確保、良好な景観形成など、森に期待される多様な機能が発揮できるよう、引き続き良好な森づくりを進めていきます。森づくりにあたっては、市民の皆様と地域の特性などを踏まえて策定した保全管理計画や森づくりガイドラインに沿って、愛護会など多様な主体と連携しながら実施していきます。
- 樹林地維持管理助成事業は5年間実績で目標を上回っています。樹林地の安全で良好な維持管理のため、また、台風被害による負担を軽減するためにも、今後も計画的な管理を行っていただけるよう、維持管理に助成制度の活用をご案内していきます。
- 現行計画の開始と同時に始まった「森づくり体験会」は、当初は、主に森づくりに関心を持った初心者の方を対象とした体験会でした。2021 年度からは、これまで複数回体験会に参加した方を対象とした「継続編」も始まり、年に4回継続して、林床整理や間伐を実施することで、ボランティアの森づくり作業のスキル向上や森づくりによって森の環境の変化を学ぶ機会が得られました。その他、環境活動支援センターと連携して実施している入門講座の中で「実践編」を行い、座学と森づくり活動を一連で学ぶことで、より森づくり活動への理解が深まり、参加者の満足度も高く、その後の森づくり関連事業への参加にも繋がりました。
- 2023 年度には、森づくり作業を手伝ってほしい森づくり活動団体と様々な活動場所で興味のある活動に参加したい個人ボランティアを繋ぐ新たな取組として「よこはま森の助っターズ」を開始しました。体験事業の拡充により、ボランティア参加者が増え、森に関心を持ち、様々な形で森を育む市民の活動が広がっていっていることを実感しています。
- 「よこはまの森ニュースレター」では研修や支援制度の紹介、愛護会や森づくり活動団体の活動紹介のほか、森づくり活動に必要な安全管理の知識や、森づくり活動を実施した樹林地の林床にどんな変化がもたらされたのかなどの情報提供を行っています。森づくり活動団体やボランティアの皆さんの活動内容や楽しみの幅が広がるような記事を今後も掲載していきます。

◆施策2についての評価・提案

- 緑地保全制度による樹林地の指定について、対象樹林地の小規模化やコロナ禍の影響により、難しい対応を求められた5年間でしたが、そのような中でも、14 か所の保全管理計画の策定や日常の維持管理など、良好な森づくりが進められています。森が持つ多様な機能が発揮できるよう、引き続き、様々な主体と連携しながら推進してください。
- 樹林地維持管理助成事業については、2020 年度から助成対象を拡充し、土地所有者のニーズにも柔軟に対応しました。5年間の実績で目標を上回ったことは大きな成果です。引き続き甚大化する台風被害への対応も含めて、民有地の着実な維持管理が行われ、利用者や周辺住民の安心・安全が守られることを期待します。
- 森づくりを担う人材の育成について、「森づくり体験会」が、コロナ禍においても感染症対策を行いながら開催されたことや、「よこはま森の助っターズ」のような、活動団体と個人のボランティアを繋ぐ取組が開始されており、さらなる展開を期待しています。
- 森づくり活動団体への支援については、コロナ禍にも関わらず5か年の実績が目標を上回るなど、大きな成果を上げています。引き続き必要な支援を着実に進めてください。

施策3　森と市民とをつなげる取組の推進

事業④　市民が森に関わるきっかけづくり　みどり税

●事業概要（計画書から抜粋）

横浜の森について理解を深め、さらには行動につなげるため、森に関するイベントや講座の開催により、市民が森に関わるきっかけを提供します。また、市内5か所にあるウェルカムセンターの活用などにより、情報発信等に取り組みます。

●実績

項目	2023 年度		5か年の実績	5か年の目標
	目標	実績		
取組（1）　森の楽しみづくり				
市内大学や関係団体などと連携したイベントや、区主催による地域の森でのイベントの実施	36 回	133 回	382 回	180 回
取組（2）　森に関する情報発信				
ウェルカムセンター周辺の緑を活用したイベント等	10 回	10 回	47 回	50 回

↑よこはま森の楽校
（保土ケ谷区　横浜国立大学）

（緑区　横浜創英大学）→

森の中のプレイパーク
（神奈川区　立町みはらし公園、神奈川図書館）

CSR活動支援体験会
（栄区　横浜自然観察の森）

森の伝え手講座
（保土ケ谷区　環境活動支援センターほか）

ウェルカムセンター（企画展）
（保土ケ谷区　環境活動支援センター）

ウェルカムセンター（ガイドツアー）
（青葉区　寺家ふるさと村四季の家）

市担当者からのコメント（環境創造局みどりアップ推進課）

- 森の楽しみづくりとして、市内各地にある樹林地や緑を活用した自然観察イベント等を実施しました。森の楽校のキャンパスイベント及び市内小学生を対象に図書館及び公園で実施したイベント（森の中のプレイパーク）は、コロナ禍の状況を考慮してイベントの中止やオンラインでの開催などの対応を行っていましたが、2022、2023 年度は、プレイパーク実施図書館も増え、春と秋に計4館で開催することができました。
- また、事業者向けの CSR 活動支援の体験会を実施し、事業者の皆さんにも横浜の森について理解を深め、活動に関わっていく機会を提供しました。
- 森の魅力を伝える人材の育成として、森の伝え手講座を実施しています。この講座でほかの人に森の魅力を伝えられる、インタープリテーションの技術を身に付けてもらうことで、将来的に森づくりに関わる人材を増やしていくことに繋げています。
- 憩いの場としての市民の樹林地に対する関心は高まっており、これまで関心の無かった方にも樹林地を訪れてもらう機会が増えています。この機会を捉えて、森の楽しみ方を伝え、親子を中心に「横浜の森ファン」を増やすことで、利用マナーや、横浜みどりアップ計画への理解や協力を得ていきたいと考えています。
- ウェルカムセンターで開催する樹林地や緑を活用した自然観察イベントについてはリピーターによる人気がある一方で、新規の参加者が少ないといった課題があります。多くの方に市内にある森の存在や魅力を知ってもらうためにも、幅広い層に伝わる効果的な取組や広報手段について検討していきます。

◆施策3についての評価・提案

- イベントの実施については、コロナ禍により制限せざるを得ない状況が長く続きましたが、「市内大学や関係団体などと連携したイベントや、区主催による地域の森でのイベント」では、2023 年度及び5か年実績とも、目標を大きく上回っていることは大きな成果です。
- ウェルカムセンターでの自然観察イベントについては、新たな参加者を増やすために、まずは、「横浜の森ファン」を増やしていく必要があります。そのためには、森に関する行事については、各区役所や学校、大学生との連携を進めるなど、更なる検討を行ってください。検討にあたっては、単にファンを増やすだけでなく、訪れる方が安心・安全に森を利用するための、基本的な利用マナーの周知等も合わせ検討されることを望みます。
- 横浜商工会議所とすでに実施している事業者向けのCSR活動をさらに広げ、企業と連携した様々な森の保全活用を一層推進してください。緑の保全をはじめとした環境への貢献活動先を求めている企業は増えています。企業の森づくり活動への理解を深め、社会貢献活動の受入先としての樹林地の活用や、企業が森づくり活動の新たな担い手となりうる仕組みも検討してください。

「森を育む」施策を検討する部会　部会長コメント

横浜みどりアップ計画の第３期［2019－2023］が終了します。第３期の「森を育む」施策を検討する部会において強く実感するのは、各種の緑地保全制度による指定の拡大、横浜市による買取り保証によって森の保全活動が着実に定着してきたことです。それと歩調を合わせるように森を育むための人材育成や森づくり活動団体への支援がますます重要となってきました。緑の保全は、市民、企業及び行政による長い時間のかかる取組ですが、多くの市民の支えが必要です。

横浜みどりアップ計画の第４期［2024－2028］において、横浜のみどりアップ計画が絶えることなく実行されてゆくことを期待しています。

望月　正光

(2)計画の柱2　市民が身近に農を感じる場をつくる

良好な景観形成や生物多様性の保全など、農地が持つ環境面での機能や役割に着目した取組、地産地消や農体験の場の創出など、市民と農の関わりを深める取組を展開します。

施策1　農に親しむ取組の推進

事業①　良好な農景観の保全　みどり税

●事業概要(計画書から抜粋)

農地は良好な農景観の形成や生物多様性の保全、雨水の貯留・かん養機能など多様な機能を有しており、横浜に残る農地や農業がつくりだす「農」の景観は多様です。農業専用地区に代表される、集団的な農地から構成される広がりのある景観や、樹林地と田や畑が一体となった谷戸景観などが、地域の農景観として多くの市民に親しまれてきました。この農景観を次世代に継承するため、横浜に残る貴重な水田景観を保全する取組や、意欲ある農家や法人などにより農地を維持する取組を支援します。

●実績

項目		2023 年度 目標	2023 年度 実績	5か年の実績	5か年の目標
取組(1)　水田の保全					
水田保全面積		125ha	111.1ha	111.1ha	125ha
水源・水路の確保		2 か所	4か所	14 か所	10 か所
取組(2)　特定農業用施設保全契約の締結					
特定農業用施設保全契約の締結		制度運用	36 件	145 件	制度運用
取組(3)　農景観を良好に維持する活動の支援					
まとまりのある農地を良好に維持する団体の活動への支援	集団農地維持面積	730ha	671.4ha	671.4ha	730ha
	農地縁辺部への植栽	11 件	21 件	87 件	55 件
	井戸の改修	1地区	3地区	13 地区	5地区
	土砂流出防止対策	3件	4件	17 件	15 件
周辺環境に配慮した活動への支援	牧草等による環境対策	4ha	5.89ha	25.20ha	20ha
	たい肥化設備等の支援	5件	6件	14 件	25 件
取組(4)　多様な主体による農地の利用促進					
遊休農地の復元支援		0.3ha	0.90ha	2.72ha	1.5ha

保全された水田（泉区）

水田の用水路の修繕（泉区）

土砂流出防止対策を実施した農地
（都筑区）

まとまりのある農地の周辺部への植栽
（緑区）

事業② 農とふれあう場づくり

みどり税

●事業概要（計画書から抜粋）

食と農への関心や、農とのふれあいを求める市民の声の高まりに応えるため、収穫体験から本格的な農作業まで、様々な市民ニーズに合わせた農園の開設や整備を市内各地で進めます。

また、市民と農との交流拠点である横浜ふるさと村や恵みの里を中心に、市民が農とふれあう機会の提供や、農家への援農活動を支援します。

●実績

項目	2023 年度 目標	2023 年度 実績	5か年の実績	5か年の目標
取組（1） 様々な市民ニーズに合わせた農園の開設				
様々な市民ニーズに合わせた農園の開設	8.3ha	2.36ha	19.86ha	22.8ha
うち 収穫体験農園の開設支援	1.5ha	1.62ha	13.89ha	7.5ha
うち 市民農園の開設支援（栽培収穫体験ファーム・環境学習農園・認定市民菜園）	2.0ha	0.74ha	5.42ha	10ha
うち 農園付公園の整備	4.8ha	0ha（整備中 4.4ha）	0.55ha（整備中 4.4ha）	5.3ha
取組（2） 市民が農を楽しみ支援する取組の推進				
横浜ふるさと村、恵みの里等で農体験教室などの実施	90 回	101 回	422 回	450 回
市民農業大学講座の開催（1年次の講座回数）	35 回	35 回	110 回	100 回
家族で学ぶ農体験講座の開催	6回	6回	29 回	30 回

開設支援した収穫体験農園
（戸塚区）

開設支援した認定市民菜園
（鶴見区）

恵みの里の農体験教室（旭区）

家族で学ぶ農体験講座（環境活動支援センター）
（保土ケ谷区）

市担当者からのコメント（環境創造局農政推進課・みどりアップ推進課・環境活動支援センター）

- 水田保全に関する事業では、市内の水田面積の約9割の申し出をいただいています。市民の方からは「身近に水田があり、田植えや稲刈りなど季節折々の風景を楽しんでいる」「今後も末永く水田として残してほしい」という声をいただいています。
  一方で、近年は土地所有者の高齢化や相続等の問題で担い手が不足し、水田面積も年々減少傾向にあることから、水田の維持管理への支援の必要性を痛感しています。
- 農園開設の取組では、気軽に農体験を楽しみたいという市民ニーズの高まりも受け、5か年で約 13.8ha の収穫体験農園の開設支援を行いました。また、3月末時点で 217 農園の認定市民菜園が運営されており、市民の方が身近に農とふれあう場を増やすことができました。
- 2023 年度は、幼稚園の園児が農家の指導により農作業を体験できる環境学習農園の開設を支援しました。子どもの頃の農体験は、食や地域の人々とのつながりを深められる大切な体験だと感じています。引き続き子どもたちを含む多くの市民が農体験できる場づくりに取り組んでいきます。
- 農園付公園は、この5か年では、2020 年 4 月 1 日に阿久和富士見小金台公園を開園した他、3か所の予定地において開園に向けて整備を進めています。整備中の農園付公園はインフラ整備に関する関係機関協議や地元調整に時間を要していますが、できるだけ早く開設できるよう、引き続き取り組みます。
- 横浜ふるさと村や恵みの里での農体験については、2023 年度は新たに都岡地区恵みの里でエダマメの栽培体験の取組がスタートしたことをはじめ、複数の地区で以前よりも活動が活発化し、市民の方に農とふれあっていただく機会を増やすことができました。
- コロナ禍を経て、農体験イベントの参加申込みがいっそう増えるなど、農への関心が高まっていることを実感しており、今後も引き続き市民の方に農体験の機会を提供できるような取組を推進していきます。
- 家族で学ぶ農体験講座では、小学生が家族と一緒に作物の植付けから収穫までの様々な農作業を体験するなど、楽しみながら農と触れ合う機会を提供しました。2021～2022 年度は、感染症防止対策として実施方法を工夫し取組を進めました。参加者からは「普段体験できない植付けや種まきができて楽しかった」「子どもが野菜をよく食べるようになった」「子どもが収穫した野菜を嫌いなものでも食べていた」などの声がありました。
- 市民農業大学講座は 2022 年度に内容の見直しを行い、これまで野菜・果樹と花・植木の2コースに分けて開催していたものを統合し、野菜・果樹・花・植木の作業の基礎を総合的に学習する1コースの講座として開催しました。受講生からは「講座実習を通して自然環境を相手にする農家の大変さがよくわかった」「あまり興味のなかった花の分野についても興味を持つことができた」などの感想がありました。コースを統合したことで、講座生が幅広い分野の知識・技術を習得できており、講座修了後の援農や緑化ボランティア活動のさらなる展開につなげていきたいと思います。

◆施策１についての評価・提案

- 水田保全の取組については、粘り強い働きかけを行っていることが、市内の水田面積の約9割が保全されていることにつながっていると考えます。担い手の高齢化などの課題に対応するよう、新たな担い手の確保やさらなる支援を行う仕組みづくりなど、水田景観が末永く維持できる取組の検討、推進を強く期待します。
- 農園開設の取組では様々な農体験を楽しみたいという市民ニーズにしっかりと対応できていると思います。特に収穫体験農園は開設面積が目標を大きく上回っています。身近な場所での農体験は地域への愛着を育む場ともなるので、今後は都心部など農地の少ない地域でも農とふれあう場の創出を期待します。
- 設備が充実した農園付公園は、農園を使う方だけでなく、地域にとっても様々な交流を育む場となるため、引き続き、開設に向けた整備等に期待します。
- 市民が農を楽しみ支援する取組の推進については、工夫をこらしながら様々な体験が実施されています。特に子どもの農体験は、食育や環境学習の面でかけがえのない経験となります。様々な事業において引き続き工夫を望みます。
- 市民農業大学講座は、受講生が多様な知識・技術を身に付けられるよう、内容に工夫がみられます。修了生が幅広く活躍され、農の担い手の確保につながり、さらにはみどりの助っ人となることを期待します。
- 農家への支援を引き続き進めながら、横浜の市民力を生かし、休耕地対策や、農を支援する取組の検討を望みます。
- みどりアップ計画の実績が着実に積みあがっている一方で、農地や担い手の減少が進んでいる現状があります。農業生産基盤の整備や担い手支援などの農業施策とみどりアップ計画の施策のバランスをしっかりと取りつつ、事業推進をしてください。

施策2　地産地消の推進

事業③　身近に農を感じる地産地消の推進

●事業概要（計画書から抜粋）

身近に市内産農畜産物や加工品を買える場や機会があることへの市民ニーズは高く、地域で生産されたものを地域で消費する地産地消の取組は、身近に農を感じ、横浜の農への理解を深めるきっかけにもなります。

そこで、「横浜農場※の展開」による地産地消を推進するため、地域でとれた農畜産物などを販売する直売所等の整備・運営支援や、市内で生産される苗木や花苗を配布するなどの取組を進めます。あわせて、地産地消に関わる情報の発信など、PR活動を推進します。

※横浜農場：食や農に関わる多様な人たち、農畜産物、農景観など、横浜らしい農業全体を農場と見立てた言葉

●実績

項目	2023 年度		5か年の実績	5か年の目標
	目標	実績		
取組（1）地産地消にふれる機会の拡大				
直売所・青空市等の支援	57 件	66 件	262 件	285 件
緑化用苗木の配布	25,000 本	25,700 本	124,506 本	125,000 本
情報誌などの発行	6回	6回	30 回	30 回

焼芋機の導入（都筑区）

緑化用苗木の配布（中区）

横浜農場公式インスタグラム

はまふぅどナビ第 64 号

事業④　市民や企業と連携した地産地消の展開

●事業概要（計画書から抜粋）

市内産農畜産物を食材として活用し、加工販売したいと考える企業や、横浜の農業の魅力を伝える活動を行う野菜ソムリエや料理人などが増え、市民や企業、学校など農業関係者以外の主体が地産地消の取組を実施する活動が広がっています。この動きをさらに拡大するため、市民の「食」と、農地や農畜産物といった「農」をつなぐ「はまふぅどコンシェルジュ」などの地産地消に関わる人材の育成やネットワークの強化を図り、「農のプラットフォーム」を充実するとともに、農と市民・企業等が連携した「横浜農場の展開」を推進します。

●実績

項目	2023 年度		5か年の実績	5か年の目標
	目標	実績		
取組（1）地産地消を広げる人材の育成				
はまふぅどコンシェルジュの活動支援等	30 件	40 件	163 件	150 件
地産地消ネットワーク交流会の開催	1回	1回	5回	5回
取組（2）市民や企業等との連携				
市民や企業等との連携	10 件	15 件	71 件	50 件
ビジネス創出支援	4件	1件	15 件	16 件
学校給食での市内産農産物の一斉供給	推進	316 校	1,586 校	推進
料理コンクールの開催	1回	1回	5回	5回

はまふぅどコンシェルジュ活動支援
（農作業体験の開催）

企業等との連携による地産地消の推進
（神奈川大学経営学部の学生と協力した地産地消のPR）

地産地消ビジネス創出支援事業
（補助対象となった商品）

はま菜ちゃん料理コンクール
入選作品

市担当者からのコメント（環境創造局農業振興課）

- 直売所等の支援として、自動販売機や焼芋機、冷蔵ショーケースの導入等に補助を行いました。また、より多くの市民に地産地消を身近に感じてもらえるよう、青空市やマルシェを開催する団体や農家へのぼり等の PR 資材配付、農家や地産地消に取り組む事業者に対するマルシェへの出店支援を行いました。市内産農畜産物や加工品を買える場所や機会については、市民からの問い合わせも多く、アンケートの結果等からも市民ニーズが高いことが伺えます。このようなお声に応えるためにも、直売所や青空市、マルシェ等を継続的に支援し、PR していくことが必要だと思います。
- 2023 年度の地産地消月間では、市庁舎において「横浜農場　食と農のマルシェ」の開催やよこはま地産地消サポート店※と連携した「よこはま地産地消サポート店レシートキャンペーン」、横浜農場公式 Instagram アカウントを活用したプレゼントキャンペーンの開催など、市民に向けて地産地消の PR を積極的に実施しました。2020 年度に開設した横浜農場 Instagram 公式アカウントは、地産地消月間に実施したキャンペーンの効果もあり、現在 5,500 名を超える方にフォローしていただき、横浜の農畜産物や農景観など農の魅力を広く発信することに貢献しています。様々なイベントの開催や SNS による情報発信を行ってきましたが、レシートキャンペーンの応募時に行ったアンケートでは6割を超える方が「横浜農場」を見たことがないと回答しています。広報手段を限定せず、「横浜農場」を露出させる様々な機会を捉え、今まで以上に市民に伝わる情報発信・PR が必要だと考えます。
- 企業等と連携してイベントやマルシェにおいて地産地消ブースやキッチンカーを出店し、地産地消のPRを実施しました。高島中央公園で毎月開催している「みなとみらい農家朝市」では、神奈川大学と連携したイベントを行い、学生の柔軟な発想により、事業を活気づけることができました。また、大型商業施設との連携によって、施設内に横浜農場の販売ブースが開設され、市民にとって身近な場所で市内産農産物が購入できる場を増やすことができました。企業等のノウハウを活用することで、これまで地産地消に関心が低かった新しい市民層に発信することができ、より多くの場で地産地消に触れる機会を提供できました。今後も多様な主体と連携し、地産地消をPRしていくことが大切だと感じています。
- 教育委員会や小学校、JA横浜と連携し、小学生を対象に市内産野菜を使った学校給食のメニューを募集する「はま菜ちゃん料理コンクール」の開催や、地産地消月間には市内産のダイコン等を市立小学校へ一斉供給しました。特に「はま菜ちゃん料理コンクール」は 2023 年度、過去最多の 2,363 点もの応募があり、多くの児童が興味関心を持ってくれています。これには、はまふぅどコンシェルジュとしても活動する栄養士の存在が大きいと感じます。
- 地産地消の取組は、子どもが食育への意識を高め、地元に対する愛着や誇りを持つことにもつながります。学校現場の負担を増やさないことに留意しつつ、今後も取組を進めていきます。

※よこはま地産地消サポート店 ： 新鮮な旬の野菜や果物、卵、“はまぽーく”などの市内産農畜産物を積極的にメニューに取り入れて、地産地消に取り組んでいる市内の飲食店等

◆施策2についての評価・提案

- 市内産農畜産物や加工品を身近な場所で買える場はこれまでの取組で着実に増えましたが、高い市民ニーズに応えるため、今後も一層の支援とPRを進めてください。
- コロナ禍でイベントができない状況が続きましたが、Instagramの活用などで情報発信方法を変えるなど工夫がみられます。今後も横浜の農の魅力の発信においてさらなる工夫を期待します。
- はまふぅどコンシェルジュや地産地消サポート店など、様々な主体と連携しながら、横浜の農の魅力を市民が実感できる取組を引き続き進めてください。
- 企業等と連携した地産地消の取組を着実に増やしたことで、新しい市民層への情報発信と、地産地消に触れる機会の提供が進んだことを評価します。今後も企業等のアイディアを積極的に取り入れ、市民の地産地消への関心が広がることを期待します。
- はまふぅどコンシェルジュによるマルシェや農作業体験教室の開催は、地産地消の展開に寄与しています。今後は多様な市民ニーズに応えるために、はまふぅどコンシェルジュ同士や、地域の拠点となる地産地消サポート店などが相互に連携を深めることで、地域に密着した地産地消の取組が増えることを期待します。また子どもから高齢者まで、あらゆる世代で地産地消が展開されるよう、新しいニーズに応じた支援を期待します。
- 農畜産物の加工品製造については、農家や事業者などの関心が高いため、支援できる事業の周知をしっかりと行い、ニーズに合わせた支援内容を検討してください。
- 学校給食での地産地消の取組は、食育だけでなく子どもたちが地域や農への親しみを育む面でも非常に重要です。今後も様々な主体とも連携し、さらなる取組の推進を期待します。

「農を感じる」施策を検討する部会　部会長コメント

「農を感じる」施策を検討する部会は、大きく2つの施策を対象としていますが、その1つは「農に親しむ取組の推進」です。主な具体策としては、水田保全、農地縁辺部への植栽、土砂流出防止対策、牧草等による環境対策等の「農景観の保全」、認定市民菜園・農園付公園等の開設支援、農体験教室・市民農業大学講座等の「農とふれあう場づくり」からなり、多くの成果・実績をあげています。その一方で、高齢化や農業後継者等の担い手不足、集団的な資材置場への転用などが農景観の保全策を損ねているとの指摘も多く、これらの課題解決をはかる農業施策と連動させた展開が一層重要になっています。

2つ目の施策は「地産地消の推進」です。主な具体策は、直売所・青空市等の支援、苗木配布、はまふぅどコンシェルジュの活動支援、交流会、料理コンクール開催、ビジネス創出支援などであり、いずれも成果・実績をあげています。今後は、例えば、モデル地域の指定などで、地域の農業者・コンシェルジュ・ヘルスメイト・地産地消サポート店・小学校等が相互に連携し、市民生活に密着した地産地消の取組を進めていくことが期待されます。

内海　宏

（3）計画の柱3　市民が実感できる緑や花をつくる

街の魅力を高め、賑わいづくりにつながる緑や花、街路樹などの緑の創出に、緑のネットワーク形成も念頭において取り組みます。また、地域で緑を創出・継承する市民や事業者の取組を支援します。

施策1　市民が実感できる緑をつくり、育む取組の推進

事業①　まちなかでの緑の創出・育成　みどり税

●事業概要（計画書から抜粋）

多くの市民の目にふれる場所での緑化や目にする機会の多い街路樹を良好に育成するための取組、地域で古くから親しまれている名木古木の保存など、市民が実感でき、生物多様性の保全に寄与し、地域の良好な景観形成や賑わい創出につながる緑の創出・育成を推進します。

●実績

項目	2023 年度 目標	2023 年度 実績	5か年の実績	5か年の目標
取組（1）　公共施設・公有地での緑の創出・育成				
緑の創出	7 か所	5か所	39 か所	36 か所
緑の維持管理	推進	41 か所	245 か所	推進
取組（2）　街路樹による良好な景観の創出・育成				
並木の再生	2 路線	2路線	9路線（7路線完了・2路線整備中）	10 路線
空き桝の補植	推進	高木 62 本 低木 1,613 本	高木 294 本 低木 5,739 本	推進
良好な維持管理	18 区で推進	14,873 本（18 区で実施）	83,549 本（18 区で実施）	18 区で推進
取組（3）　シンボル的な緑の創出・育成				
公有地化によるシンボル的な緑の創出・管理※	推進	緑の創出：2か所（整備中　2か所） 緑の管理：2か所	緑の創出：3か所（整備完了　1か所　整備中　2か所） 緑の管理：10 か所	推進（想定箇所：継続2か所、新規2か所）
公開性のある緑空間の創出支援	推進	0か所	6か所	推進（想定箇所：10 か所）
取組（4）　建築緑化保全契約の締結				
建築物緑化保全契約の締結	制度運用	0件	59 件	制度運用
取組（5）　名木古木の保存				
名木古木の保存	推進	新規指定：2本 維持管理助成：43 件	新規指定：69 本 維持管理助成：311 件	推進

※多くの市民の目にふれる場所で、緑豊かな空間を創出するほか、地域に親しまれている緑のオープンスペースの存続が困難になった場合に用地を取得し、緑や花による地域のシンボル的な空間として保全し、良好に育成します。

公有地化によるシンボル的な緑の創出
（神奈川区　六角橋四丁目公園）

名木古木の保存（磯子区）

公共施設・公有地での緑の創出
（港北区　港北区庁舎）

街路樹による良好な景観の育成（中区）

市担当者からのコメント（環境創造局みどりアップ推進課・道路局施設課）

- 公共施設・公有地での緑の創出・育成では、区庁舎や地区センターなどの身近な公共施設で、花壇整備や屋上緑化などの緑化を進めました。緑と花のある魅力的な公共施設を多くの市民の方に感じていただけるよう引き続き取組を進めていきます。
- 並木の再生では、街路樹が健全に生育する環境に配慮して、地域で愛されている老朽化した桜並木を更新しました。また、維持管理では、限られた道路空間の中で街なかの景観形成や緑陰形成による暑さ緩和などに寄与するために、剪定の頻度を増やす等のきめ細やかな管理を計画的に行いました。
- 公有地化によるシンボル的な緑の創出では、2023年度に港の見える丘公園において、地域のシンボルらしい、風格ある緑豊かな空間整備を目指した設計を行いました。また、（仮称）北寺尾六丁目公園は「町のはらっぱ」として地域に親しまれており、防災拠点としても機能する貴重な緑地を次世代に残すよう、設計及び整備を行っています。これまでに5年間で3か所の緑の創出に取り組むとともにこれまで創出した緑の良好な管理を行いました。
- 名木古木の保存事業では、負担となっている樹木の維持管理を支援することにより故事来歴があり地域に親しまれている樹木の保存につなげています。今後も、利用者のニーズを踏まえながら保存に必要な支援をしていきます。

◆施策1についての評価・提案

- 公共施設・公有地での緑の創出・育成や公有地化によるシンボル的な緑の創出・育成では、市民が実感できる身近な緑として、街の価値を向上させるような美しい景観の創出の場となり街の魅力の増進につながるよう、植栽の工夫を図るなど、民間緑化の手本となるような取組を推進してください。
- 多くの市民が目にする機会の多い街路樹において、きめ細やかな剪定が行われ良好な景観がつくられることは、市民の緑の実感につながりやすいといえます。特に最近の気候状況下では、街路樹の果たす緑陰の効果が期待されています。それらを含め、取組をきっかけに地域の方々が街路樹に愛着を持ってもらえるよう、周知等の取組を進めていくことを期待しています。
- 公開性のある緑空間の創出支援や建築物緑化保全契約の締結など、民有地において緑を創出する取組の実績が低迷しています。市民が花や緑の美しい街横浜として、誇りをもっていただくためには、民有地の質の高い緑化が重要となっています。最近では、多くのオフィスビルでも、壁面緑化や屋上緑化が行われ、国際的な指標なども作成されています。取組や支援制度がより認知・活用されるよう、効果的なPRを行うとともに、より活用されやすい制度となるよう見直しを進めることで、市民・企業の緑化の取組が促進されることを期待しています。

施策２　緑や花に親しむ取組の推進

事業②　市民や企業と連携した緑のまちづくり　みどり税

●事業概要（計画書から抜粋）

緑あふれる魅力的な街をつくるためには、市民や企業と連携した取組が不可欠です。地域が主体となり、地域にふさわしい緑を創出する取組など、緑の創出・育成に積極的に取り組む市民や企業を支援し、市民の生活の身近な場所で、緑や花に親しむきっかけづくりを推進します。

また、第33回全国都市緑化よこはまフェアなど、これまで多くの市民や企業の協力で展開された各区での緑や花に親しむ取組を、引き続き推進します。

●実績

項目	2023 年度		5か年の実績	5か年の目標
	目標	実績		
取組（1）　地域緑のまちづくり				
地域緑のまちづくり	新規6地区	新規3地区	新規 23 地区	新規 30 地区
取組（2）　地域に根差した緑や花の楽しみづくり				
緑や花を身近に感じる各区の取組	18 区で推進	18 区で推進	18 区で推進	18 区で推進
地域の花いっぱいにつながる取組（18 区の公園を対象）	推進	推進	推進	推進
取組（3）　人生記念樹の配布				
人生記念樹の配布	8,000 本	5,882 本	32,904 本	40,000 本配布

創出された民有地の緑化
（旭区　白根二丁目地区）

活動報告会の様子
（港北区　綱島西地区）

地域緑のまちづくり

事業③　子どもを育む空間での緑の創出・育成

みどり税

●事業概要（計画書から抜粋）

次世代を担う子どもたちが緑と親しみ、感性豊かに成長できるよう、子どもが多くの時間を過ごす保育園、幼稚園、小中学校を対象に、施設ごとのニーズに合わせた多様な緑の創出・育成を進めます。緑の創出にあたっては、子どもたちと生き物とのふれあいが生まれるような空間づくりに取り組みます。

●実績

項目	2023 年度		5か年の実績	5か年の目標
	目標	実績		
取組（1）　保育園・幼稚園・小中学校での緑の創出・育成				
緑の創出	20 か所	35 か所	203 か所	100 か所
緑の維持管理	推進	111 か所	578 か所	推進

園庭の花壇整備
（港北区　港北保育園）

園庭のビオトープ整備
（南区　清水ケ丘保育園）

学校へのビオトープアドバイザー派遣
（都筑区　川和小学校）

校庭・園庭芝生の育て方講座
（神奈川区　幸ケ谷小学校）

事業④　緑や花による魅力・賑わいの創出・育成

みどり税

●事業概要（計画書から抜粋）

第33回全国都市緑化よこはまフェアには、多くの人が訪れ、緑や花が人を呼び込み、街の賑わいを創出しました。多くの市民が時間を過ごし、国内外から多くの観光客が訪れるエリアである都心臨海部などにおいて、これらの取組を継承し、公共空間を中心に緑や花による空間演出や質の高い維持管理を集中的に展開し、街の魅力や回遊性の向上・賑わいづくりにつなげます。

●実績

項目	2023 年度		5か年の実績	5か年の目標
	目標	実績		
取組（1）　都心臨海部等の緑花※による魅力ある空間づくり				
緑花による空間づくりと維持管理	推進	13 か所	71 か所	推進

※緑花（りょくか）とは・・・樹木や芝生などの「緑」と四季折々の彩（いろどり）としての「花」を組み合わせて植栽することで、街の魅力形成や賑わいづくりを行うものです。

緑花による空間づくり
（港北区　新横浜駅周辺）

緑花による空間づくり
（旭区　里山ガーデン）

花の名所づくり
（保土ケ谷区　横浜市児童遊園地）

緑花の維持管理
（中区　日本大通り）

市担当者からのコメント（環境創造局みどりアップ推進課）

- 地域緑のまちづくり事業では、提案団体それぞれの緑化候補場所の現地を確認しながら、個別の事業説明を実施しました。また、地域緑化計画策定に向けた支援を行い、2023年度は3団体が選考を通過しました。
  この5年間はコロナ禍により事業説明会などの運営を試行錯誤し、5年間で23地区の協定となりました。協定が結ばれた地区では緑と花のまちづくりの機運が着実に高まっていると感じています。また、協定締結期間が終了する団体からも、地域に緑や花が増えたという喜びの声や、まちなかの緑化活動を通じて高齢者と子どもなど地域の新しいつながりが生まれたなどの声が寄せられました。一方で、協定期間終了後の活動継続について、担い手の高齢化や活動資金不足などの課題があり、アドバイザー派遣など活用可能な支援の周知などがより重要になっています。
- 緑や花を身近に感じる各区の取組では、身近な公園や地域での花壇づくり、ガーデニング講座など、市民・企業等と連携した取組が広がっています。引き続き、街の魅力向上・賑わいの創出とともに、GREEN×EXPO 2027に向けた機運醸成にもつながっていくよう取り組んでいきます。
- 子どもを育む空間での緑の創出・育成では、保育園や小学校等で花壇づくりや記念植樹、園庭・校庭の芝生化を進めています。子どもたちが青々とした芝生に寝転がったり、側転などの運動をしたり、芝生ならではの過ごし方をしています。またビオトープづくりを通して、生きものに触れる機会が増え、学校では生活科や総合学習などで活用されている事例もあります。
- 緑花による空間づくりは、山下公園や港の見える丘公園、日本大通りなどの都心臨海部や主要な駅前等で緑や花による街の魅力や賑わいづくりを進めました。また都心臨海部に加え里山ガーデンなど、ガーデンネックレス横浜として緑や花の魅力を市内外へ発信し多くの市民や来街者に楽しんでいただくことができました。引き続き、18区での取組などと合わせて、ガーデンシティ横浜の魅力を創出・発信する取組を続けています。

◆施策2についての評価・提案

- 地域緑のまちづくりでは5か年の目標である30地区が23地区と下回ってしまったものの、コロナ禍による地域団体の活動の困難さや取組の工夫に挑戦する5か年でもありました。アフターコロナの世の中での地域活動のあり方も変容し、地域の状況も様々です。それらに対応し、企業やNPO法人などとも連携し、コミュニティガーデン等の多くの方の参加を促すことのできるような取組を推進してください。
- 子どもを育む空間での緑の創出・育成では、5か年の目標を大幅に超え、ニーズと丁寧に向かい合い子どもたちが緑に親しむ空間づくりが進められています。学校ごとのニーズに応じた取組が展開されることを期待しています。
- 緑や花を身近に感じる各区の取組や緑花による魅力ある空間づくりでは、地域に根差した取組や来街者に楽しんでもらえるような緑花空間の創出が進んでいます。発信力のある横浜市ならではの取組を推進していき、GREEN×EXPO 2027に向けて、より一層の市民・企業の参加が広がり、環境先進都市としての横浜を世界にアピールしていくことを期待しています。

「緑をつくる」施策を検討する部会　部会長コメント

緑をつくることは、緑の量を増やすだけでなく、コミュニティの繋がりや、地域のアイデンティの形成、横浜らしい景観の保全や形成に結びつくものであり、横浜みどり税により、他の地域にはない地域緑のまちづくり事業なども市内に展開されるようになりました。

施策の効果は、市担当者からのコメントにもあるように成果がでていると思いますが、今後は社会情勢の変化を踏まえた新しい取組も必要だと感じています。

例えば、最近では多くの都市でコミュニティガーデンの試みが行われています。コミュニティガーデンは、1970 年代にニューヨークで行われたものが発祥ですが、最近では、企業の活動とも一緒になって進めている自治体や、シンガポールのように市民農園のような形で進めている事例もでてきています。横浜市においても地域の未利用地や提供いただける民有地等でのコミュニティガーデン等の取組が進んでほしいと考えています。

都市緑化フェアでのバラによる都市ブランディングと、里山を花で満たすガーデンネックレスは、横浜の新しい風景を創生し、アイデンティティとすることに見事に成功したといえます。これらの成果を GREEN × EXPO 2027 を契機として、市民や企業が主体となって開催するイベント等へつないでいくことを期待します。

池邊　このみ

（4）効果的な広報の展開

事業①　市民の理解を広げる広報の展開

●事業概要（計画書から抜粋）

取組の内容や実績について、より多くの市民・事業者に理解されるとともに、緑を楽しみ、緑に関わる活動に参加していただけるよう、戦略的な広報を展開します。

●実績

目標	2023 年度実績	5か年実績
広報よこはまへの記事掲載	・市版：3件（6月、11 月、3月号） ・区版：7件（西区3月号、中区5月、10 月号（2件）、11 月号、3月号、泉区3月号）	・市版：のべ 15 件 ・区版：のべ 38 件
その他広報紙への記事掲載	・神奈川新聞　市民の広場（4月 19 日） ・子ども環境情報紙「エコチル」横浜版（10 月号）　約 17 万部 ・こどもタウンニュース（11 月号）約 20 万部 ・かんきょう横浜（11 月号）電子発行 ・季刊誌みどり冬号　約1万部	・その他広報紙：のべ 17 件
実績リーフレット作成、自治会・町内会への説明や回覧	・市連会、区連会での実績報告（10 月） ・実績リーフレット等の単位自治会・町内会長配布（10 月） ・実績リーフレット等の区役所やPRボックスでの配架（10 月）	・市連会、区連会での実績報告 ・町内会等での回覧 ・実績リーフレット等の単位自治会・町内会長配布 ・実績リーフレット等の区役所やPRボックスでの配架
メールマガジンやソーシャルメディア等による情報発信	・「横浜みどりアップ計画メールマガジン」の発行（毎月） ・X（旧　Twitter）の発信（横浜　GO GREEN　@yokohama_kankyo　で「＃みんなでみどりアップ」を使用した投稿のべ 208 回 ・市公式 LINE アカウントを活用した広報（リッチメッセージの投稿）	・「横浜みどりアップ計画メールマガジン」の発行 ・X（旧　Twitter）の発信（横浜　GO GREEN　@yokohama_kankyo） ・市公式 LINE アカウントを活用した広報 ・イベント会場での X（旧 Twitter）フォローキャンペーンの実施

広告、動画等の各種メディアを活用したPR	・交通広告の動画放映：6件 〇JR 横浜線（5月1日～14 日） 〇市営地下鉄（5月1日～14 日） 〇市営バス車内デジタルサイネージ（5月1日～31 日） 〇JR 桜木町駅 J・AD ビジョン（10 月2日～11 月5日） 〇市営地下鉄（10 月2日～29 日） 〇相鉄線車内デジタルサイネージ（10 月2日～29 日） ・地域情報 web へのロゴ入り写真掲載（横浜 LOVE Walker） ・公用車等でのマグネットシートによるPR	・横浜市役所アトリウム及び横浜市役所デジタルサイネージ動画放映 ・18 区役所で動画放映 ・交通広告の掲載（市営地下鉄ブルーライン・グリーンライン・JR 横浜線・市営バス3営業所、京浜急行電鉄、東急東横線、相鉄線、みなとみらい線） ・YouTube 動画配信 ・地域情報 web への記事掲載 ・市営バス・公用車等への PR 用ステッカー（マグネットシート）の貼付掲載 ・日産スタジアムへの PR 看板の掲出 ・横断幕の掲出（動物園、水再生センター、ウェルカムセンター等）
ホームページの充実	随時更新	・市ホームページの更新（実績報告書、計画関連動画の掲載等）
緑に関するイベントでのPR	・スプリングフェア（4月） ・春の里山ガーデンフェスタ（3～5月） ・こども夏まつり（8月） ・秋の里山ガーデンフェスタ（9～10月） ・新横浜パフォーマンス（10月） ・農と緑のふれあい祭り（11月） ・金沢動物園（3月）	・イベントブース出展：21件
取組に基づいて実施したことを示す現地表示（プレート）	・みどりアップ計画実施箇所への現地表示板の設置を推進	・約1,300枚の公園花壇への現地表示プレートの設置 ・みどりアップ計画実施箇所への現地表示板の設置を推進 ・工事看板への表示 ・市民・ふれあいの樹林の案内板へのPRロゴの掲示

※市民推進会議による広報企画としては、広報誌「Yokohama みどりアップ Action」第9号を発行（詳細は7頁「ウ 広報・見える化部会」参照）

広報よこはまへの取組実績の記事掲載
（市版 11 月号）

こどもタウンニュース
（2023 年 11 月発行）

相鉄線車内デジタルサイネージでの
動画放映

JR 桜木町駅構内での
動画放映

X（旧 Twitter）での発信

秋の里山ガーデン（2023 年 10 月）

農と緑のふれあい祭り（2023 年 11 月）

取組実施箇所での現地表示看板

取組実施箇所での現地表示看板

市担当者からのコメント（環境創造局みどりアップ推進課）

- 市からの情報を得る手段としてすべての年代で高い支持を得ている「広報よこはま」や、子ども向けの広報紙などに、みどりアップ計画の取組について掲載し、広く市民の皆様へ情報発信を行いました。
- 取組実績をまとめたリーフレットを作成し、自治会・町内会へ説明、市ウェブページでの公表、各区の駅などに設置されているＰＲボックスへ配架を行い、市民の皆様へ報告しました。
- みどりアップ計画のＰＲ動画を各区役所で継続的に放映したり、春、秋の緑に関するイベントの多い時期に交通広告として動画を放映したりするなど、みどりアップ計画の取組について市民の皆様の目に触れる機会を増やしました。
- 環境創造局が運用している公式 X（旧 Twitter）アカウント「横浜 GO GREEN」を活用し、横浜みどりアップ計画の取組について様々な話題を発信しました。また、市の LINE アカウントや Instagram など、様々な媒体を使用して広くＰＲを行いました。
- 計画の取組やみどり税についての認知度が低い若年層をターゲットとし、子ども向けイベント等にも積極的に出展し、みどりアップの取組についてＰＲを行いました。イベントでは、ブースへ来訪された方から「横浜市でこのような取組をしていることを知らなかった」「横浜みどり税の使いみちを初めて知った」とお声がけいただくこともあり、引き続き、広く情報を発信する重要性を実感しています。
- 新型コロナウイルス感染症をきっかけに身近な場所にあるみどりの存在を認知していただいたという声を聞き、継続的な広報の必要性をあらためて感じました。今後も広報媒体の特性を生かし、効果的な情報発信を進めていきます。

◆施策についての評価・提案

- 多くの市民が行政からの情報を得る手段として利用している「広報よこはま」への記事掲載は、みどりアップ計画を伝えるうえで効果的です。引き続き、全市民のもとに届けられる「市版」と、より身近な情報を得られる「区版」の両方からの発信をするとともに、ほかの広報誌への掲載も推進することを期待します。
- 子ども向けの広報紙での記事掲載は、子どもだけでなく、親の世代がみどりアップ計画を知ることにもつながります。引き続き幅広い世代にみどりアップ計画が伝わるような情報発信を継続してください。また、中高生向けの広報などがより充実することを期待します。
- 様々な年代の方が利用する、電車やバス等の公共交通機関での広告掲載・動画の配信の機会が増えています。引き続き、公園やマルシェなどの市民が集う場、市民の目に触れる場所での情報発信を継続してください。
- 「YokohamaみどりアップAction」は、市民がみどりに関する活動をはじめるきっかけになることを目指して編集しており、みどりアップ計画の広報にも大きく寄与したと考えます。実際に自分で活動し楽しむことは、緑のもたらす効果や意義を実感することにもつながります。みどりアップ計画の様々なメニューがより多くの人に伝わり、活動の広がりにつながるよう、効果的な発信の仕方を検討してください。
- 情報を発信するとともに、取組を進める中で寄せられる声やみどりアップ計画の取組に関する市民向けのアンケートの結果を分析し、取組に反映してください。

広報・見える化部会　部会長コメント

今年度は、横浜みどりアップ計画3期5年間の最終年でした。新型コロナウイルス感染症による制限も解け、各みどりアップの事業活動も本稼働しました。それに伴い本来のみどりアップ事業の市民・事業者への理解を始めとして緑を楽しみ、関わる活動への参加を勧める事業活動の広報が重要な年となりました。各年代層や場所について思索され、広報誌等の紙媒体から動画等多岐にわたり、またコロナ禍期間で進展した各ソーシャルメディア媒体により幅広い年代層に情報発信されたと思われます。また、ホームページについてもみどりアップ全体の概要から3つの柱のそれぞれの取組も表示が整理され、理解しやすい図表や写真、動画も挿入され、検索しやすくなりました。

市民委員5名が市民の視点で企画、編集に関わってきた広報誌「Yokohama みどりアップ Action」の9号は、みどりアップを計画段階から 15 年間関わってこられた橋本健さんにお話を伺いながら、「これまでみどりアップで成し遂げてきたこと」「これからの横浜のみどりを考える」をテーマに5年間の総集編として拡大版を発行しました。

第3期では「みどりアップした場所や取組に実際に参加して楽しみ、暮らしに取り込むための Action を起こそう」と呼びかける紙面を目指してきました。毎号取材した講習会やイベント、みどりの活動をしている方々の生の声も伝わるよう、また市内の同様な取組があるものは一覧表や、市域の活動拠点が分かる全体図も入れ、一目見て身近のみどりを探せるよう見える化をしてきました。

まとめの9号では、みどりアップでの Acthion を起こせるよう、それぞれの市民推進委員のおすすめホームページのメニューを2次元バーコードで載せました。今後もより多くの市民、事業者がみどりのまちづくりに関心を持ち、横浜市全域のみどりアップによるみどりのまちづくりが官民一体となってさらに推進されることを期待しています。

高田　房枝

5 市民推進会議委員名簿

横浜みどりアップ計画市民推進会議 名簿（2023 年 12 月時点）

（50 音順・敬称略）

役　職	氏　名	区　分	備　考
	池島　祥文	学識経験者	横浜国立大学大学院　准教授
	池邊　このみ	学識経験者	千葉大学グランドフェロー
	石原　信也	関係団体	横浜商工会議所　産業振興部長
	今関　美津枝	関係団体	よこはま緑の推進団体連絡協議会　会長
	岩本　誠	関係団体	三保市民の森愛護会　会長
副座長	内海　宏	学識経験者	（株）地域計画研究所　代表取締役
	奥井　奈都美	公募市民	
	小野　英明	関係団体	横浜農業協同組合　組織部長
	国吉　純	公募市民	
座　長	進士　五十八	学識経験者	東京農業大学名誉教授・元学長
	関根　宏一	関係団体	横浜市町内会連合会　幹事
	高田　房枝	公募市民	
	高橋　秀忠	公募市民	
	野路　幸子	関係団体	横浜市中央農業委員会　委員
	村松　晶子	公募市民	
	望月　正光	学識経験者	関東学院常務理事、関東学院大学名誉教授

＜施策別専門部会　名簿＞

「森を育む」施策を検討する部会　名簿

（50 音順・敬称略）

役　職	氏　名	区　分	備　考
	岩本　誠	関係団体	三保市民の森愛護会　会長
	奥井　奈都美	公募市民	
	関根　宏一	関係団体	横浜市町内会連合会　幹事
	高橋　秀忠	公募市民	
部会長	望月　正光	学識経験者	関東学院常務理事、関東学院大学名誉教授

「農を感じる」施策を検討する部会　名簿

（50 音順・敬称略）

役　職	氏　名	区　分	備　考
	池島　祥文	学識経験者	横浜国立大学大学院　准教授
部会長	内海　宏	学識経験者	（株）地域計画研究所　代表取締役
	小野　英明	関係団体	横浜農業協同組合　組織部長
	野路　幸子	関係団体	横浜市中央農業委員会　委員
	村松　晶子	公募市民	

「緑をつくる」施策を検討する部会　名簿

（50 音順・敬称略）

役　職	氏　名	区　分	備　考
部会長	池邊　このみ	学識経験者	千葉大学グランドフェロー
	石原　信也	関係団体	横浜商工会議所　産業振興部長
	今関　美津枝	関係団体	よこはま緑の推進団体連絡協議会　会長
	国吉　純	公募市民	
	高田　房枝	公募市民	

広報・見える化部会　名簿

（50 音順・敬称略）

役　職	氏　名	区　分	備　考
	奥井　奈都美	公募市民	
	国吉　純	公募市民	
部会長	高田　房枝	公募市民	
	高橋　秀忠	公募市民	
	村松　晶子	公募市民	
	望月　正光	学識経験者	関東学院常務理事、関東学院大学名誉教授

6　市民推進会議委員からのコメント

市民推進会議の委員を務めてきたなかで感じたことや、生活の中で、緑について日ごろ各委員が感じたことについて、委員の皆さまからもコメントをいただきました。

池島委員コメント　（「農を感じる」施策を検討する部会　所属）

横浜みどりアップ計画はまさに計画通りに着々と、市民が触れる緑資源の維持・増加に貢献しており、非常に素晴らしい取組みです。

しかし、みどりアップ計画は森・農・緑の全体をカバーしているとは限りません。農の場合、農業振興政策全体のなかの一部をみどりアップ計画が担っている状態です。農業全体においては、どうしても農業経営面や相続面から、厳しい状態が継続しています。みどりアップ計画がその厳しい状態を緩和している部分を認めつつも、それでも、農業全体としては課題解決にむけての糸口がつかめない状態にあり、打開策を講じていく必要に迫られています。みどりアップ計画が過去の取組の継続に終始せず、時代や状況の推移に応じて、新たな施策・対策を弾力的に講じる仕組みへと転じることを期待します。

石原委員コメント　（「緑をつくる」施策を検討する部会　所属）

2009 年から始まった「横浜みどりアップ計画」は、これまで5か年ごとに評価・提案を重ね、本年が3期目(2019-2023)の最終年となりました。

3期目の計画期間のほとんどがコロナ禍によって地域の活動も制限された期間ではありましたが、皆様のご理解ご協力により着実な成果を実感し、心強く感じております。

「横浜みどり税」が活用される本計画の推進に当たっては、市民や企業の皆さまのご理解とご協力が得られるよう、本報告書を通じ、取組の成果や活動をしっかりと丁寧に説明していく必要があると考えます。

本計画の成果を一人でも多くの方々に実感いただけるように、さらには 2027 年に迎える「国際園芸博覧会」の開催に向けた機運の醸成等々に繋がるよう、今後とも本計画が着実に推進され、都市・横浜の「魅力づくり」に貢献されることを期待しております。

今関委員コメント（「緑をつくる」施策を検討する部会　所属）

現代人は生活に樹木を直接利用しなくなった為、みどりのありがたさを知らない、考えなくなっているのではないでしょうか。宅地開発される時、まず一度更地にしてから工事にかかり、コンクリート・アスファルトで覆ってしまい、水も通さず、芽も出せない状態がきれい、片付いていると思っているのでは。花木を植えるのも小さな容器で手間暇かけないと死んでしまうように育てていると思います。何十年もかけて出来上がった今ある自然を残し、手入れ・管理するのが大事なのではないでしょうか。新たに樹木を植える時は、年数がたった姿を考えて植えないと切り倒すことになります。

岩本委員コメント（「森を育む」施策を検討する部会　所属）

「みんなで育む　みどり豊かな美しい街　横浜」という計画の理念の中で横浜みどりアップ計画が推進されています。

市民の森についても安心安全・快適性が求められています。行政及びこれらに携わる多くの方々の御努力で散策路周辺のナラ枯れや倒木の除去等が進められています。今後も引き続き、森の維持管理を継続する必要があります。

2027 年には瀬谷区内で GREEN × EXPO 2027 が開催されます。特に周辺の区内の街路樹においても低木高木ともに良好に管理されていますが、今後も継続的な維持管理が望まれます。

横浜みどり税が継続されることになり喜ばしいことと思います。横浜のすべての市民の森が横浜市民の皆さまの憩いの場（森）として活用されることを願っています。

奥井委員コメント （「森を育む」施策を検討する部会、広報・見える化部会　所属）

2019 年から始まった3期目の「横浜みどりアップ計画」もいよいよ終盤を迎えますが、期間中にコロナがあったこともあり、横浜の緑のある景観や農地、そして居住地に咲く花々が、市民の生活においてより一層身近に感じられるようになったと感じています。

私自身も市民委員として6年間活動した中で印象に残っていることは、やはり現地調査と広報誌「Yokohama みどりアップ Action」の取材です。台風 19 号の爪痕の残る古橋市民の森、穏やかな田園風景、新治の森のナラ枯れに浸食された樹木、また森づくりボランティアの方々のお話など、現場に行ってこそ知り得たことがたくさんありました。

これまでの成果と今ある課題に向き合い、次に始まるみどりアップ計画がより充実したものになることを期待します。そこには市区町村、自治体との連携や、多くの市民の関心や協力を得られる効果的な広報も大事になってくるでしょう。

最後に、この6年間市民委員として関わらせていただいたことに感謝しますと同時に、これからも一市民として、横浜の豊かな緑を見守り、次の世代に継承するために小さなアクションを続けていきたいと思います。そして、2027 年に開催される GREEN ×EXPO 2027 が“横浜らしさ“を出した世界に誇れる博覧会になることを期待し、応援していきたいと思います。

小野委員コメント （「農を感じる」施策を検討する部会　所属）

市民推進会議に出席するにあたり、JA 職員代表としてこれまで農家目線で考え、発言していた経過がありました。しかし、委員の皆さまからのご意見等うかがい、参考となることが多々あり、現業を通じて市民に農業に関心を持ってもらうために、農業の重要性やその恩恵を伝えることが大切であり、農業は私たちの生活に欠かせない存在であることを様々な手段を通じて伝えていくことが重要であると感じました。

農業の大切さを市民に理解してもらうためには、農業の生産過程や取り組む農家の努力、地域資源の活用など積極的に情報発信することが求められます。

また、市民が直接農家に関わる機会を提供することで市民が実際に農業の現場を体験し、農産物の魅力や農業の魅力を実感することができます。さらに、農業の持続可能性や環境への配慮についても、市民に伝えることが重要であると感じます。

農業は自然と密接に関わり合っており、地球環境の保全や食品安全性にも大きな影響を与えています。したがって、我々JA 職員は、農業の取組や環境への取組など市民に分かりやすく伝えることで、より一層の関心を喚起できるよう努めていきたいと考えます。

国吉委員コメント （「緑をつくる」施策を検討する部会、広報・見える化部会　所属）

昨今の長く続く猛暑や、ジェットコースターのような気候変動をこの一年を通し体験し、地球環境の想定以上の悪化を強く実感として認識してきました。その中で、私たちの生活の場でもある街のみどりを継続的に守り、育み、増やす取組は、地域社会の中で市民の方々がまず最初の一歩として環境を考える、環境や生活スタイルを変えるきっかけづくりとして参加できるものではないかと考えます。

地域清掃や緑化活動、コミュニティガーデンなど現代の多様な生活スタイルに合わせた参加型みどりづくりが、横浜みどり税を利用して今後も上手に運営されることを期待しています。

また、健康で美しい緑が維持できるよう並木の管理、そして貴重な名木古木の保存など、緑の景観と緑の文化が誇れる街として引き継がれていくことを希望いたします。

高田委員コメント （「緑をつくる」施策を検討する部会、広報・見える化部会　所属）

横浜市のみどりの政策を振り返ると 1859 年の開港以降、公園整備から始まり時代の変遷に合わせて、また常に未来を見据えて様々な先進的な取組がなされ、今日に至るみどりアップに繋がってきたことを市民委員になって知りました。近年の世界的な新しい概念である NbS(Nature-based Solution)「自然に基づく解決策」は 2009 年より国際自然保護連合が提唱を始め、2020 年に普及・実践を目的として枠組みが策定されましたが、横浜市のみどりアップはこの目標とほぼ一致する、とみどりアップ施策に関わられた橋本健様から広報誌の取材時に伺いました。また世界的な潮流を踏まえて、社会資本整備やまちづくり等の課題解決、新たな社会像の実現を期待する「グリーンインフラ推進戦略 2023」を国土交通省の取組として位置付けられましたが、グリーンインフラが目指す「自然と共生する社会」の姿にもみどりアップは先行して遂行していると思われました。

みどりの「量」から「質」を求める時代に入り、今後はみどりアップの事業をサステナビリティに取り組むためには、成果を定量的にも捉えていくことも重要と考えます。生物多様性等については、横浜市全域で共通の継続的な生物調査の実施が必須で、その結果を次の計画や、改善策に繋げたり、また多様なコミュニティの醸成に期待できると思われます。個人的にもこの点を踏まえてみどりの活動を続けたいと思います。

高橋委員コメント （「森を育む」施策を検討する部会、広報･見える化部会 所属）

第3期「横浜みどりアップ計画」が始まった 2019 年は、台風 15 号･19 号により多くの「市民の森」や「樹林地」がダメージを受けました。翌年度には台風被害に活用できる助成金制度も拡充されました。今後も深刻化する風水害や土砂崩れなどの防災に役立つ取組を望みます。コロナ禍の３年は、森づくりに関心のある方たちのための「森づくり体験会」が始まるなど、感染対策をしながら各施策が推進されました。2023 年からは、森づくりボランティアの活動機会を広げる「よこはま森の助っターズ」のような新たな取組みも始まりました。

横浜市の各区役所には、各地域の自治会町内会などの市民組織との結節点となり、区民活動支援を行う部署もあります。そのネットワークを活かし、多くの市民にみどりアップ計画の理解と、みどりに関わる活動をしていただけるよう、さらなる情報発信を望みます。

みどりアップ計画とみどり税は、緑豊かな横浜を維持するための重要な取組です。自然とともにあるグリーンシティ横浜であり続けることを期待しています。

野路委員コメント （「農を感じる」施策を検討する部会 所属）

ここ数年、年々農業を様々な理由で維持が困難な人が出てきて、荒廃農地も目立ってきました。

何年か前に、「浜なし」が有名になっても、作ることができず、畑の維持が出来ない人がいたため、社会福祉法人に作って頂けるように働きかけました。今では法人の手によりその畑で美味しい「浜なし」が出来、木も切らずにすみました。

今後の農業は、持続可能な方法で、色々な人達を巻き込んで、農地を守っていこうと思っています。

この所、ようやく行政もJAもマッチング制度に力を入れ、農業をやりたい人に貸し出しする事が出来るようになりました。また、昨年から初めて農業をやりたい人が農地を買えるようになりましたが、買った人に確実に耕作して頂き、少しでも農地の維持が出来るように願っています。

村松委員コメント （「農を感じる」施策を検討する部会、広報・見える化部会　所属）

私が市民推進委員を務めた 2019 年度からの5年間は、まさに激動の世界でした。コロナ禍、戦争、災害と猛暑、AI の進歩など、人類も地球も持続可能なのかと心配になりました。その中で、緑と水、そして人々の協働の大切さを改めて強く感じています。

森や農地を維持し街路樹や公園に緑を育てることは、地球環境を保全することに加え、子どもたちに自然という豊かな情報を与え、携わる人々を結びつけるという持続可能性の根源のような意味があります。横浜みどりアップ計画の重要性がますます増しているといえます。同時に、保全にとどまらず、新しい方向も追及してほしいと思います。

農でいえば市民団体が農家と協働で農業を維持する仕組みの創設、森を保育に活用する工夫、歩道に大きな日陰をつくる街路樹の植え方など、人類と地球の未来に貢献する計画であることを願っています。

7 市民推進会議広報誌

「YokohamaみどりアップAction」

- 第１号（2019年11月発行）
  市民の森愛護会
  （緑区　鴨居原市民の森）

- 第２号（2020年２月発行）
  あぐりツアー
  （泉区　横山四季彩園）
  （瀬谷区　相澤良牧場/オーガスタミルクファーム）
  （瀬谷区　グリーンファーム　あい菜フローラ店）

- 第３号（2021年２月発行）
  オープンガーデン
  （港北区　園芸ボランティアみらい）

- 第４号（2021年３月発行）
  市民の森
  （緑区 長津田宿（ながつたしゅく） 市民の森）

- 第５号（2021年11月発行）
  農園付公園
  （泉区　岡津町ふれあい公園）

- 第６号（2022年２月発行）
  地域緑のまちづくり事業
  （西区　みなとみらい21新港地区運河パーク花時計）

- 第７号（2022年10月発行）
  市民農業大学講座
  （保土ケ谷区　環境活動支援センター）

- 第８号（2023年２月発行）
  森づくりボランティア入門講座
  （緑区　にいはる里山交流センター/新治市民の森）

- 第９号（2024年３月発行）
  みどりアップ計画のこれまでと今後
  （旭区　里山ガーデン）

「森づくり体験会」の案内チラシ（2021年11月発行）

横浜みどりアップ計画
市民推進会議広報誌

Yokohama みどりアップ Action

市民が発信
Vol.1
2019.11

Special Interview

15周年を迎えてますます元気に！

緑区にある鴨居原市民の森。約2haのこの森は、竹林が広がる北地区とクヌギやコナラの雑木林からなる南地区で構成されています。森の歴史や魅力を知り尽くす、鴨居原市民の“森の長（おさ）”にお話を伺いました。

文：奥井 奈都美、高橋 秀忠

ごみの山から、宝の森に？

その昔、ここは不法投棄された自動車の古タイヤや粗大ごみの山でした。それをどうにか「みんなで綺麗な森にしたい！」と鴨居第八地区自治会長が声をあげ、自治会役員を中心とした有志のメンバーが集まり、森の再生が始まりました。そこで結成されたのが「鴨居原ふれあいの森愛護会」（後の「鴨居原市民の森愛護会」）です。平成16年に愛護会が発足し、翌17年に市民の森が開園してからずっと、地域の皆さんに愛される森を目指して、15年間様々な活動を行ってきました。

親子で参加したくなる楽しいイベント

“子どもたちが故郷（ふるさと）と感じる森づくり”をスローガンに、春の竹の子掘りや夏のソーメン流しなど、親子で参加できるイベントを季節ごとにたくさん行っています。

森からの贈り物に触れて、そして食べて美味しい！ イベントには、地域の住民から区境を越えて隣町の人たちまで、毎回たくさんの参加者で賑わっています。「この森が20年、30年と続いてほしい」と同愛護会の菅原会長。みどりアップ計画で保全した森を、地域の人がみんなで大事に育てていて、森の恵みが子どもたちに受け継がれていることを感じました。

セカンドライフは愛護会で

活動の中核メンバーは50人程度。それも88歳を筆頭に、70歳以上が約9割を占めています。「月2回の定例活動と、それ以外にも市民の森に隣接する民有地の『ふれあい農園』で作業もしており、けっこう忙しいが、『できる事をできるだけやる。無理はしない』がモットー」「午前中の短時間作業を心掛け、楽しんでいる」と阿部名誉会長と菅原会長。力仕事の多い森の作業は男性が中心ですが、農園の作業は主に女性の得意分野。それがきっかけで、女性会員が増え、今ではメンバーの4割が女性なのだとか。農園で採れた野菜をみんなで山分けしていただくのも、楽しみの一つですね。森で体を動かし、土に触れ、仲間とお喋りを楽しみながらやる、これらが、愛護会の皆さんが元気でいられる秘訣なのでしょう。活動に参加したい！と思えるような、幅広い世代の笑顔と活気あふれる森でした。

Best Point

ここが魅力！鴨居原市民の森

多様な生き物に出会え、季節の移ろいを実感できる市民の森。イベントには多くの世代の人が集い、笑顔があふれます。そんな鴨居原市民の森の南地区をご紹介。

3 鎌倉古道沿いの「ハンカチの木広場」

入り口では、花壇と開園記念に植えられたハンカチの木、キンモクセイ、シダレザクラなどが、訪れた皆さんを迎えます。

鴨居原市民の森愛護会

1 樹木に囲まれた「ふれあい広場」

竹の間伐材を利用した「ソーメン流し」などのイベントを開催し、地域のたくさんの人との“ふれあい”を感じる広場です。

2 市民の森と共存共栄「ふれあい農園」

市民の森に隣接する民有地で、愛護会が地主さんの協力を得ながら農園を開始。野菜を作り、焼き芋大会などで賑る舞っています。

Q 市民の森ってなに？

横浜市独自の、緑地を保全する制度の一つで、緑を守り育てるとともに、山林所有者の方々のご協力により、市民の憩いの場として利用されています。

Q 市民の森愛護会ってなに？

市民の森の日常的な維持管理をされている地域住民の団体です。平成31年4月までに開園した市民の森39か所で、31の愛護会が活動しています。

ここにみどり税

横浜みどりアップ 緑っぴー

みどりアップ計画では市民の森などの制度によって森の保全を推進中。市が森を買い取るときや愛護会の維持管理作業にはみどり税を使っています。

市民の森に遊びに行こう!

中面でご紹介した鴨居原市民の森以外にも、市内では平成31年4月1日現在39箇所の市民の森が公開されています。

まずは、近くの森に散策に行ってみませんか?

平成31年4月1日現在

市民の森利用ルール

- ☑ 利用時間は日の出から日の入りまで。
- ☑ 植物などを持ち帰ったり、持ち込んではいけません。
- ☑ ごみは持ち帰りましょう。

森のガイドマップ無料配布中!

ダウンロードはこちらから!

各市民の森のガイドマップを市民情報センター(市庁舎1階)、各区役所広報相談係、環境創造局みどりアップ推進課で無料配布しています。

私たちが「みどりアップACTION」をつくっています!

2019年度から横浜みどりアップ計画市民推進会議広報・見える化部会の委員は新メンバーとなりました。横浜のみどりの現状を市民の視点で捉え、さらに問題点や解決方法を取材し、みどりを点から線、面へと繋ぐために、誰もが行動できる様々なきっかけ、情報を皆さまにお伝えしていきます。

(写真左から国吉、高橋、村松、望月、高田、奥井)

横浜みどりアップ計画とは?

緑豊かな環境を将来に残すために、市民の皆さんと一緒に緑を守り、つくり、育てていく計画。財源の一部として、「横浜みどり税」を活用しています。

横浜みどりアップ計画市民推進会議とは?

横浜みどりアップ計画について評価、提案、市民への情報提供をする、市民参加の組織です。

YOKOHAMA みどりアップACTIONとは?

みどりアップの現場を市民目線でレポートし、その場へ「行ってみよう」「見つけてみよう」と思えるような緑の魅力をお伝えします。私たち市民委員と一緒に緑のACTION(行動・活動)を起こしましょう!!

※令和元年度に「みどりアップQ」からリニューアルしました。

市民推進会議広報誌

ご意見・ご感想をお待ちしています!

みどりアップACTIONについて、ご意見・ご感想、取り上げてほしい特集テーマなどのご要望をお待ちしています。いただきましたご意見・ご要望は、今後の発行の参考にさせていただきます。

詳しくはこちら!

YOKOHAMAみどりアップACTION 第1号
(旧 みどりアップQ)(市民推進会議広報誌第36号)令和元年11月発行
編集:横浜みどりアップ計画市民推進会議 広報・見える化部会
発行:横浜みどりアップ計画市民推進会議事務局

問合せ
横浜市環境創造局政策課(事務局)
TEL:045-671-4214 FAX:045-641-3490
E-mail:ks-mimiplan@city.yokohama.jp

横浜みどりアップ計画
市民推進会議広報誌

Yokohama みどりアップ Action

市民が発信
Vol.2
2020.2

1. 2. 農家の横山さんがお芋の掘り方を説明　3. 焼き芋を試食　4. 参加者全員で集合写真　5. 親子で芋掘り　6. 牛舎の乳牛　7. 生まれたての子牛をのぞき込む子どもたち

横浜で農にふれる、おいしさを知る「あぐりツアー」

『みなと』のイメージが強い横浜ですが、実は農地がたくさんあり、農産物もたくさん生産されています。そんな横浜の姿を知り、採れたてのおいしさを味わえるイベント「あぐりツアー（横浜農業探検隊）」に参加しました。

文：村松晶子、国吉純

畑で芋掘り体験

今回のツアーは、サツマイモの収穫・牧場の見学・直売所でのお買い物という内容で、10月に泉区・瀬谷区で行われました。まず横山四季彩園の見晴らしの良い広い畑で芋掘り。ここは横浜市独自の制度「農業専用地区」の畑です。農園主の横山拓巳さんは四代目の若い専業農家さん。ハワイに2年住んで日本の四季の美しさに気づき、日本の自然を感じられる農業に打ち込んでいます。はじめに親子の体験用に準備された畝（うね）の前に集まり、説明を聞き、さあ芋掘りです。思ったより大きいお芋も多く、手で懸命に土を掻き出しながら夢中で掘っていました。「土いじりが楽しい」とみんな笑顔。収穫後には、「つぼ焼き」という専用器具で焼いたお芋がふるまわれ、「こんなおいしいお芋食べたことない！」との声が上がりました。

牧場と直売所の見学

次に向かったのは相澤良（あいざわりょう）牧場。約40頭の乳牛を飼育しています。初めて見る牛に子どもたちがびっくりしていました。7年前から牧場の牛乳だけを使ったソフトクリームを製造し、カフェを開業。6次産業化※することで、経済的に好転したそうです。子どもたちが思わず笑顔になる、優しいミルク味が印象的でした。市街地の牧場なので、近隣との共存が気になりましたが、学校給食への提供や、児童の乳搾り体験などに積極的に取り組んでおり、むしろ地域のシンボルとなるような牧場だと思いました。最後はグリーンファームあい菜（さい）フローラ店。花の苗や野菜が並んでおり、地元の新鮮な野菜のお買い物をしました。

農とふれあう場づくりと大学との協働

今回のツアーは、横浜市環境創造局と農的資源を活用した地域活性化や環境に配慮した取組をすすめることを目的として、連携協定を結んだフェリス女学院大学の学生さんと佐藤輝教授が企画運営に参加しました。当日は、学生さんがツアーガイドとして、クイズやインタビューを交えながら進行し、農の魅力を柔らかく伝える役割を果たしてくれました。

※農林漁業者が生産から加工・販売までを手掛けること。（1次×2次×3次）

巡った場所をご紹介

横山四季彩園（泉区）

菜花、アスパラ菜、トマト、サツマイモなど年間36品目の季節野菜を栽培し、直売所などで販売。横山さんがご用意してくださった「紅はるか」の焼き芋は専用の壺を使い低温で2時間ほどかけて焼いているため、甘くしっとりとしたお味が特徴。
※通常は収穫体験は実施していません。

泉区直売所マップ

相澤良牧場／オーガスタミルクファーム

約70年の歴史があり、搾りたての新鮮な牛乳で濃厚なソフトクリームなどを作り販売。横浜の酪農家は13軒。横浜の酪農の歴史は古く、日本の牛乳製造販売も横浜が発祥。

- 住所：瀬谷区阿久和南3-11-11 ●電話：045-489-6211
- 営業時間：10:30～16:00
- 休業日：1月～3月中旬の月曜日・年末年始（3月下旬～12月は無休）

HPはこちら！

グリーンファーム あい菜フローラ店

総合ガーデニングショップの中にある新鮮な地場野菜が買える野菜直売所。

- 住所：瀬谷区阿久和南4-8-289 ●電話：045-360-6887
- 営業時間：春夏9:30～18:30 秋冬9:30～17:30
- 休業日：1月・2月の水曜日

HPはこちら！

＼行ってみよう！体験してみよう！／

収穫体験情報はこちら！

あぐりツアーはこちら！

青空市・直売所はこちら！

ここがみどりアップ計画

計画では、農とのふれあいを楽しめる場づくりが進められています。あぐりツアーは、その取組のひとつとして実施している農産物の生産現場や直売所などを訪れる企画です。一緒に横浜の素敵な「農」を発見しましょう！

現地調査に行ってきました！

市民推進会議では、横浜みどり税を活用した横浜みどりアップ計画の取組について検証することを目的に、現地を視察する調査部会を毎年実施しています。

2019年10月に泉区を訪れました。文：高橋秀忠

和泉小学校 1

2年前にビオトープへと再生された校内の「ニコニコ池」は総合学習の場としても活用されています。子どもを育む空間として維持管理するには、地域の方々のサポートが欠かせません。

古橋（こばし）市民の森 2 3

20年前までごみが多かった森が再生され、今年4月に市民の森になりました。訪れたときは、台風19号による倒木などで散策路が通れない状況になっており、愛護会の方は市の協力を得て、森の復旧に取り組んでいました。近隣の高齢者宅の庭木の剪定（せんてい）や庭の手入れなどにも大活躍、愛護会の方々は地域に頼られる存在となっています。

和泉町の水田 4

刈り取られた稲の「はさがけ」も見られ、秋の田園風景が広がっていました。

Column

横浜の農と学校連携

横浜みどりアップ計画では地産地消推進の取組の一環として、市民や企業、大学と連携した様々な取組を行っています。例えば、フェリス女学院大学の学生は、横浜市と連携して、インスタグラムで横浜の「農」と「食」に関する写真を投稿する「ハッシュタグ横浜農場キャンペーン」を実施しており、地産地消のPRなどに協力しています。これからの横浜の農には、市民参加が欠かせません。地産地消の推進に生かされるような活動（Action）に熱心に取り組む学生をとても頼もしく感じました。

横浜みどりアップ計画とは？

緑豊かな環境を将来に残すために、市民の皆さんと一緒に緑を守り、つくり、育てていく計画。財源の一部として、「横浜みどり税」を活用しています。

横浜みどりアップ計画市民推進会議とは？

横浜みどりアップ計画について評価、提案、市民への情報提供をする、市民参加の組織です。

YOKOHAMA みどりアップACTIONとは？

みどりアップの現場を市民目線でレポートし、その場へ「行ってみよう」「見つけてみよう」と思えるような緑の魅力をお伝えします。私たち市民委員と一緒に緑のACTION（行動・活動）を起こしましょう!!

※令和元年度に「みどりアップQ」からリニューアルしました。

市民推進会議広報誌

ご意見・ご感想をお待ちしています！

みどりアップACTIONについて、ご意見・ご感想、取り上げてほしい特集テーマなどのご要望をお待ちしています。いただきましたご意見・ご要望は、今後の発行の参考にさせていただきます。

詳しくはこちら！

YOKOHAMA みどりアップACTION 第2号
（旧 みどりアップQ）（市民推進会議広報誌第37号）令和2年2月発行
編集：横浜みどりアップ計画市民推進会議 広報・見える化部会
発行：横浜みどりアップ計画市民推進会議事務局

問合せ
横浜市環境創造局政策課（事務局）
TEL：045-671-4214　FAX：045-641-3490
E-mail：ks-mimiplan@city.yokohama.jp

横浜みどりアップ計画
市民推進会議広報誌

Yokohama みどりアップ Action

市民が発信
Vol.3
2021.2

※撮影時のみマスクを外していただきました。

緑と花でつながる仲間の絆

園芸ボランティアみらいの皆さんに聞きました!

港北区にある新吉田地域ケアプラザ。敷地内に咲くきれいな花々をお手入れされているのが「園芸ボランティアみらい」です。その熱心な活動の原動力は? 大事に育てられている花を見ることができるベストな機会は? 取材を通して見えてきたのは、緑と花を介して結ばれる、人と人との絆でした。

文:奥井 奈都美、国吉 純

活動歴はなんと18年! 仲間との交流も楽しみのひとつ

園芸ボランティアみらいは、2000年に新吉田地域ケアプラザで開催された、園芸ボランティア養成講座の修了生が中心となり立ち上げたと語った代表の吉岡さん。設立から18年、メンバーひとりひとりが自分のスキルを上手に生かし、地域での大人の仲間づくりを楽しみながら、息の長い活動を続けられています。

現在メンバーの平均年齢は80代。『ここで皆さんと会えるのが楽しみ』、『お花がきれいに咲くのが一番嬉しい』とおっしゃっていました。これが元気の秘訣ですね。

活動エリアは広く、ケアプラザのほとんどの植物を、年間を通してお手入れされています。そんな熱心な園芸活動が認められ、様々な賞を受賞しています。

港北オープンガーデンでお披露目

何った季節は秋、奥の花壇には、色とりどりの可愛らしい花が咲いていました。ポーチュラカ、コスモス、ニラバナ、etc.秋の美しい花がこんなにあったとは、と驚きました。皆さん、おしゃべりを楽しみながら伸び過ぎた枝葉をサクサクと手際よく切っていきます。毎年春に開催されている「港北オープンガーデン」に参加されているとのことなので、次のイベントでは是非ここに来て、春の花と皆さんの笑顔に再会したいと思いました。

活動を始められた頃の様子

ここがみどりアップ計画 » 緑や花に親しむ市民の盛り上がりを醸成するため、「地域に根差した緑や花の楽しみづくり」を進めています。その取組のひとつとして、港北オープンガーデンの運営を支援し、地域発の緑の活動に寄り添っています。

港北区の職員の方に聞きました!

※2019年度のオープンガーデンの様子。2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響に鑑み中止となりました。

港北オープンガーデンとは?

転入者の多い港北区において、地域への愛着を深めてもらおうと始まった取組です。2013年から毎年春に開催※され、期間中、会場となっている個人庭や地域の方々がお手入れしている花壇を楽しむことができます。オープンガーデンの企画・運営は、区民ボランティアと港北区役所で組織された「港北オープンガーデン運営委員会」が担っています。ボランティアスタッフによる案内所設置や、人気企画のガイドツアーもあり、会場間を楽しみながら歩けるような工夫も。区民の方々に支えられた、地域に根差したイベントになっていますね。お庭のオーナーさんとボランティア、参加者…多様な人たちの出会いの場にもなり、地域の絆が育まれているそうです。
緑と花が人にもたらす力を感じました。

港北オープンガーデン 詳しくはこちら!

やってみようガーデニング
～春の花を楽しむ～

花を置いて楽しみたくなったら、難しく考えず、園芸店などに行って苗を買うことから始めましょう。名前がわからなくても、好きな色の花を選んでベランダやお庭でガーデニングをしてみませんか?
蕾が多くて、しっかりとした苗がおすすめです!

葉裏の病気の跡や虫の有無もチェックしておくと良いでしょう♪

植え方

1. プランターに鉢底石をひと並べする。
2. 肥料を混ぜた培養土を鉢の半分くらいまで入れる。

3. 花苗を置く。鉢から1cmくらい下まで土がくるように。低すぎるときは調整する。
4. 苗の周りに土を入れる。割り箸などで隙間なく土が入るように突く。

5. 苗の土と同じ高さまで土が入り、苗がぐらつかなくなったら完成。
6. 花に水がかからないようにたっぷり水やりをする。鉢底から水が流れるのを確認したらもう一度、水が流れるまで水やりをする。

春の花壇やプランターに向く花

春の庭やベランダでは優しいパステルカラーの花色がたくさん出回ります。

- 青い花:ワスレナグサ、ネモフィラ、ブルーデージー
- 黄色い花:クリサンセマム・ムルチコーレ、カレンジュラ
- 白い花:スイートアリッサム、ノースポール、マーガレット
- ピンクの花:リナリア、キンギョソウ、オステオスペルマム、etc.

身近な緑、増えています!!

横浜みどりアップ計画では、今ある樹林地や農地を守るだけでなく、多くの市民の皆さんの目にふれる場所で、緑豊かな空間を新たにつくっています。今回は、「シンボル的な緑の創出・育成」の取組として新たに整備された公園をご紹介します！

六角橋四丁目公園

中央に芝生広場があり、眺めがよく、季節の花も楽しめます。シンボルツリーとして芝生広場の中央に植えられている木は、区の木でもある「コブシ」です。まちなかに心地良い空間が生まれました。

所在

神奈川区六角橋4-720-4

アクセス

横浜駅から市営バス50系統・神大寺入口行
県営栗田谷住宅前バス停下車
徒歩2分

皆さんの身近な場所にも「新しい緑」があるかも!?
ぜひ、見つけてみてください!

これが目印!

横浜みどりアップ計画

無料配布!

苗木の数だけ想い出がある「人生記念樹」

区の木などの中から、お好きな苗木を選べます♪

横浜みどりアップ計画では、多くの市民の皆さんが緑をつくり、育むきっかけとなるよう、出生や入学、住宅の新築や購入などの人生の節目の記念に、人生記念樹として苗木を配布しています。想い出とともに人生記念樹を育ててみませんか？ インターネットまたは各区の区役所で配布している専用はがきで申し込めます。

詳しくはこちら!

横浜みどりアップ計画とは?

緑豊かな環境を将来に残すために、市民の皆さんと一緒に緑を守り、つくり、育てていく計画。財源の一部として、「横浜みどり税」を活用しています。

横浜みどりアップ計画市民推進会議とは?

横浜みどりアップ計画について評価、提案、市民への情報提供をする、市民参加の組織です。

Yokohama みどりアップAction とは?

みどりアップの現場を市民目線でレポートし、その場へ「行ってみよう」「見つけてみよう」と思えるような緑の魅力をお伝えします。私たち市民委員と一緒に緑のAction（行動・活動）を起こしましょう!!

※令和元年度に「みどりアップQ」からリニューアルしました。

市民推進会議広報誌

ご意見・ご感想をお待ちしています!

みどりアップActionについて、ご意見・ご感想、取り上げてほしい特集テーマなどのご要望をお待ちしています。いただきましたご意見・ご要望は、今後の発行の参考にさせていただきます。

詳しくはこちら!

Yokohama みどりアップ Action 第3号
（旧 みどりアップQ）（市民推進会議広報誌第38号）令和3年2月発行
編集：横浜みどりアップ計画市民推進会議 広報・見える化部会
発行：横浜みどりアップ計画市民推進会議事務局

問合せ
横浜市環境創造局政策課（事務局）
TEL:045-671-4214　FAX:045-550-4093
E-mail:ks-mimiplan@city.yokohama.jp

横浜みどりアップ計画
市民推進会議広報誌

Yokohama みどりアップ Action

市民が発信
Vol.4
2021.3

市民の森って何？

「市民の森」、聞いたことはありますか?市民の森は横浜市独自の制度により守られた、散策できる樹林地です。実は、土地所有者を始めとした多くの方の支えにより利用できています。今回は、オープンしたばかりの「長津田宿市民の森」を訪ねながら、市民の森についてご紹介します。

文:高田房枝、高橋秀忠、村松晶子

実は身近にあった市民の森

長津田宿市民の森の出入口は民家のすぐ先にあり、街の中にひょっこり現れる印象です。公園と違い門はなく案内板が目印となっていて、日の出から日没まで自由に出入りできます。私たちが散策できるこのような市民の森は市内に47か所※あり、多くは土地所有者と横浜市が契約することで公開されています。こんなに身近なところに森があるなんて、驚く方も多いのでは?

市民の森で見つけた整備の工夫

入口の先には木漏れ日注ぐ樹林地が広がり、街の喧騒(けんそう)から一転、森の精気が感じられます。中は散策路やステージのような広場、野外卓が整備され、親子連れが楽しそうに利用していました。急な斜面地は柵で囲われ安全も確保されています。森の整備にあたっては、その森が持つ景観や特徴を生かせるよう工夫しているそうです。森ごとに異なる表情を楽しみたいですね。

市民の森の役割分担イメージ

※2021年3月現在。40か所を公開中。

1. 森づくりボランティア体験会　2. クロアゲハ　3. 保全管理計画の打合せ　4. マルバスミレ　5. ウグイスカグラ　6. アカネスミレ　7. 保全管理計画フォローアップ研修
8. 長津田市民の森案内板

森づくりの担い手 やってみよう!

市民の森では、森を良好な状態に保つため「市民の森愛護会」や「森づくり活動団体」として多くの市民が活躍しています。下草刈りから樹木の手入れまで多種多様な活動をしています。森に興味がある方は、はじめてでも気軽に参加できる「森づくり体験会」があるので、森と関わるはじめの一歩を体験してみませんか?

森づくりボランティア
ー森づくり体験会ー

美しく様々な生き物が暮らす豊かな横浜の森は、森づくり活動により守り育まれています。手を入れるとこたえてくれる、森の魅力を味わってみてはいかがでしょう。

みんなで考える保全管理計画

将来にわたって良好な森を保つためには、計画的な管理が欠かせません。市民の森では、愛護会、土地所有者、ボランティアなどの市民と行政、専門家が集まって話し合い、未来の森の姿を描いた「保全管理計画」を作っているそうです。

計画では、林・草地・谷戸・土手などの自然環境面や、生き物の保全・育成や環境学習といった機能面、安全面から区域を分け、区域ごとの管理方法などが決められていました。このようにしてみんなの森がつくられ、保たれているんですね。

まずは訪ねてみましょう やってみよう!

市民による、市民のための「市民の森」、いかがでしたか? 市民の森には、夏の朝に広場の木陰で朝刊を読んだり、鳥や植物の観察会、愛護会が開催するイベント(切った竹で流しそうめんやバームクーヘンづくりなど)に参加したりと、色々な楽しみ方があります。市主催の森づくり体験会に参加してみても良いかもしれません。まずは、お住まいの近くの市民の森を探して、公園とひと味違う市民の森を楽しんでみてください!

市民の森ではフィールドマナーを守りましょう!

- 道からはずれない
- 生きものを持ち帰らない持ち込まない
- ごみタバコ等は捨てずに持ち帰る
- 利用時間は日の出から日没まで
- 火・コンロは使わない
- ペットはつないで

ここにみどり税

市民の森の整備や維持管理、愛護会・森づくり活動団体の支援、保全管理計画づくりなどに横浜みどり税が使われています。

横浜みどりアップ 葉っぴー

2020年4月オープン！
長津田宿市民の森

長津田十景※のひとつ「御野立落羅（おのたちらくがん）」すぐ近くにある約3.0 haの森で、日々の散策や自然観察、憩いの場として利用できるエリアと、斜面緑地を保全する樹林保護区（非公開）とがあります。
目を引くのは森の中央にある、まるでステージのような、緩やかな斜面を持った広場です。かつて耕作が行われていた場所を生かして整備されました。

所在 横浜市緑区長津田町2365-2

アクセス JR横浜線・東急田園都市線長津田駅南口より徒歩10分
（駐車場はありませんので、公共交通機関をご利用ください。）

長津田宿市民の森のマップはこちら！

※長津田十景詳しくはこちら！

市民推進会議広報誌・バックナンバー公開中！

市民推進会議広報誌のバックナンバーを横浜市のHPで公開しています。市民の森をレポートしたバックナンバーもあるので、ぜひアクセスしてみてください！

詳しくはこちら！

横浜みどりアップ計画とは？

緑豊かな環境を将来に残すために、市民の皆さんと一緒に緑を守り、つくり、育てていく計画。財源の一部として、「横浜みどり税」を活用しています。

横浜みどりアップ計画市民推進会議とは？

横浜みどりアップ計画について評価、提案、市民への情報提供をする、市民参加の組織です。

Yokohama みどりアップActionとは？

みどりアップの現場を市民目線でレポートし、その場へ「行ってみよう」「見つけてみよう」と思えるような緑の魅力をお伝えします。私たち市民委員と一緒に緑のAction（行動・活動）を起こしましょう!!

※令和元年度に「みどりアップQ」からリニューアルしました。

市民推進会議広報誌

ご意見・ご感想をお待ちしています！

みどりアップActionについて、ご意見・ご感想、取り上げてほしい特集テーマなどのご要望をお待ちしています。いただきましたご意見・ご要望は、今後の発行の参考にさせていただきます。

詳しくはこちら！

Yokohama みどりアップAction 第4号
（旧 みどりアップQ）（市民推進会議広報誌第39号）令和3年3月発行
編集：横浜みどりアップ計画市民推進会議 広報・見える化部会
発行：横浜みどりアップ計画市民推進会議事務局

問合せ
横浜市環境創造局政策課（事務局）
TEL：045-671-4214　FAX：045-550-4093
E-mail：ks-mimiplan@city.yokohama.jp

横浜みどりアップ計画
市民推進会議広報誌

Yokohama みどりアップ Action

市民が発信
Vol.5
2021.11

① 岡津町ふれあい公園　② アドバイスをする栽培相談員　③ 団体区画利用の保育園児

農園付公園で野菜づくりをはじめませんか？

梅雨明け間もない晴天の7月、泉区緑園都市に近い
「岡津町ふれあい公園」を訪問しました。
公園といっても中央に広がるのは農園、そして周りを囲む樹林。
ここには、子どもや高齢者、障害のある方、
誰もが野菜や土に親しめるきっかけがありそうです。　文: 奥井 奈都美、高橋 秀忠

農園付公園とは？

横浜みどりアップ計画において農作業を楽しめる農園を設置した公園で、区画契約者は自由に栽培・収穫できます。公園内は契約者以外も自由に出入りでき、散策などが楽しめます。

自分だけの畑で自分なりの野菜づくり

農体験ゾーンの団体区画で最初にあったのは、かわいい利用者さん。地元保育園の園児でした。ちょうど収穫にきたところで、手に持っている野菜を見せてもらうと、ピーマン、トマト、ナス、ししとうと色鮮やかな夏野菜でした。「どんな野菜が好き？」という問いかけに、意外にも「ピーマン！」という元気な声。保育園では収穫した野菜を調理し、給食として食べているそう。みんな自分の手で育てた野菜の美味しさをよく知っているんですね。

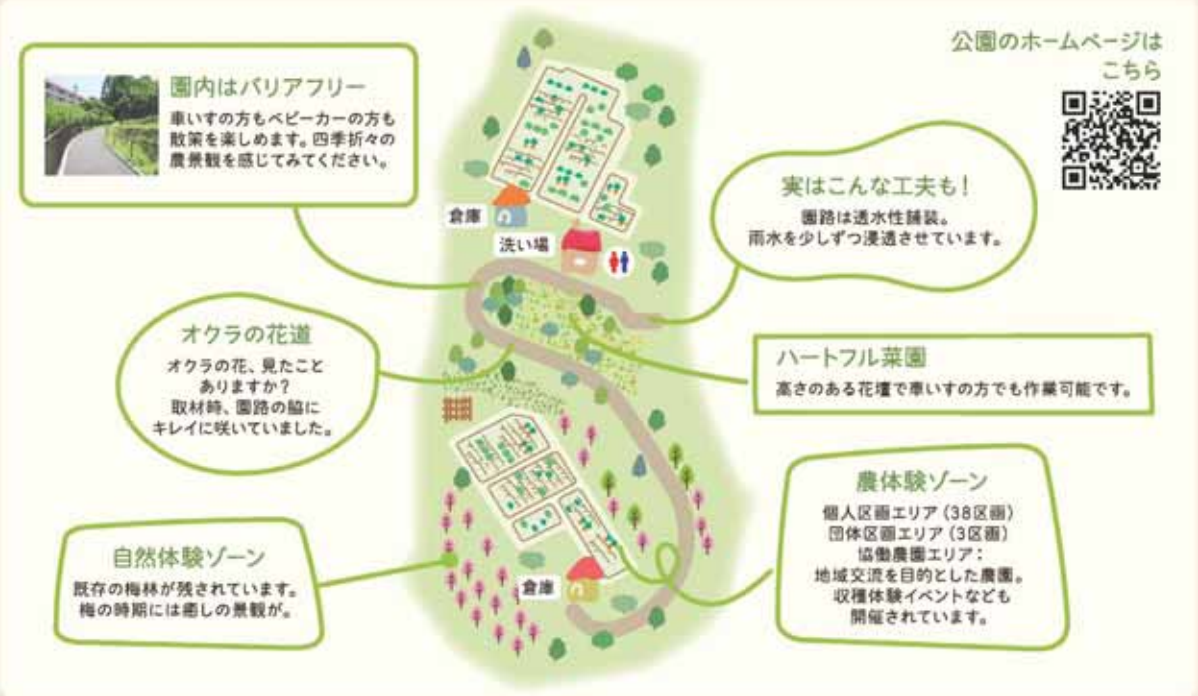
２年以上個人区画を利用しているという方にも畑を見せていただくと、こちらも立派なトマト、ナス、オクラが育っていました。話を聞くと、せっかく美味しそうに育ったトウモロコシを、ハクビシンに食べられてしまったとのこと。畑の周りをしっかりと網で囲って獣害対策をしていました。

初めてでも誰でも楽しめる！

公園にいる指定管理者の栽培相談員が、土づくりをはじめ、植付けから収穫までの野菜の育て方を定期的にアドバイスしてくれます。クワやスコップ、ジョウロ、バケツなどの道具の無料貸出しや土の酸度を測定するサービスも。菜園活動をサポートしてもらえます。

園内には、車イスのままで野菜づくりが楽しめる「ハートフル菜園」もありました。ここでは近隣の特別養護老人ホームと協働で野菜づくりをしているそうです。

岡津町ふれあい公園の案内図



① 栽培相談員と談笑する利用者　② ハートフル菜園で植え付けする利用者　③ 協働農園では地域の方と農作業も

公園×野菜づくり＝地域交流？！

この公園を管理しているのは、横浜に根差して130年の歴史を持つ種苗会社。利用者の皆さんは専門の会社から種や肥料を注文することもできるので安心ですね。ここでは「はまっ子ユーキ」という、市内の公園緑地や街路樹の管理で出た剪定枝や刈草をリサイクルした環境にやさしい堆肥を提供していました。

感染症が流行する前は、近隣の特別養護老人ホームと連携しながら、農園で採れた野菜を使ってBBQや焼き芋をして、地域の皆さんとの交流を図っていました。再開を楽しみに待っている人もきっと多いことでしょう。

ここにみどり税

みどりアップ計画では、市民が身近に農体験ができる公園として、農園付公園を設置しています。公園整備に横浜みどり税を使っています。

横浜みどりアップ 葉っぴー

市内の農園のある公園

農園のある公園は市内に14か所あり、初心者からベテランの方までたくさんの方が野菜づくりを楽しんでいます。園内を散策することもできますので、まずはお近くの公園に足を運んで農を感じてみてはいかがでしょう。

市内の農園のある公園

① 大棚杉の森ふれあい公園	都筑区大棚町472-1
② 若草台第二公園	青葉区若草台6-1
③ 師岡町梅の丘公園	港北区師岡町511-3
④ 東寺尾一丁目ふれあい公園	鶴見区東寺尾1丁目66-1
⑤ 菅田町赤坂公園	神奈川区菅田町222-1
⑥ 仏向原ふれあい公園	保土ケ谷区仏向町1252番1
⑦ 南本宿公園	旭区南本宿町37-4
⑧ 南本宿第三公園	旭区南本宿町81-3
⑨ 阿久和富士見小金台公園	瀬谷区阿久和東2丁目61-1
⑩ 今井の丘公園	保土ケ谷区新桜ケ丘1丁目42
⑪ 岡津町ふれあい公園	泉区岡津町2623
⑫ 泉が丘公園	泉区和泉が丘3丁目6
⑬ 和泉アカシア公園	泉区下和泉1丁目8
⑭ 深谷町ふれあい公園	戸塚区深谷町1272-5

☆区画の空き状況、利用料金等については、各公園の指定管理者にお問い合わせください。(各公園のホームページも参考にしてください)

市民推進会議広報誌・バックナンバー公開中!

市民推進会議広報誌のバックナンバーを
横浜市のHPで公開しています。
「農」をテーマにレポートしたバックナンバーもあるので、
ぜひアクセスしてみてください!

詳しくはこちら!

横浜みどりアップ計画とは?

緑豊かな環境を将来に残すために、市民と一緒に緑を守り、つくり、育てていく計画。財源の一部として、「横浜みどり税」を活用しています。

横浜みどりアップ計画 市民推進会議とは?

横浜みどりアップ計画について評価、提案、市民への情報提供をする、市民参加の組織です。

Yokohama みどりアップActionとは?

みどりアップの現場を市民目線でレポートし、その場へ「行ってみよう」「見つけてみよう」と思えるような緑の魅力をお伝えします。私たち市民委員と一緒に緑のAction(行動・活動)を起こしましょう!!
※令和元年度に「みどりアップQ」からリニューアルしました。

市民推進会議広報誌

ご意見・ご感想をお待ちしています!

みどりアップActionについて、ご意見・ご感想、取り上げてほしい特集テーマなどのご要望をお待ちしています。いただきましたご意見・ご要望は、今後の発行の参考にさせていただきます。

詳しくはこちら!

YokohamaみどりアップAction 第5号
(旧みどりアップQ)(市民推進会議広報誌第40号)令和3年11月発行
編集:横浜みどりアップ計画市民推進会議広報・見える化部会
発行:横浜みどりアップ計画市民推進会議事務局

問合せ
横浜市環境創造局政策課(事務局)
TEL: 045-671-4214 FAX: 045-550-4093
E-mail: ks-mimiplan@city.yokohama.jp

横浜みどりアップ計画
市民推進会議広報誌

Yokohama みどりアップ Action

市民が発信
Vol.6
2022.02

① 興味をもった保育園児も参加

レガシーつなぐ花時計

みなとみらい地区の運河パークに丸い花時計（日時計）があります。これは、2009年に開催された「開国博Y150」を祝して、横浜青年会議所と市内企業を中心とする実行委員会により開国博入り口前に作られました。当時は30m×40mの大きなものでしたが、終了後の撤去を惜しむ声があがり、市民団体が維持管理を引き継いで、モニュメント周辺部分に縮小して存続しています。10年以上にわたって、市民団体の方々による緑のまちづくりの活動として、ボランティア参加の市民とともに花時計を育んできました。　文: 国吉 純、村松 晶子

花時計に関わる多くの人々の協力

現在、花時計は「NPO法人横浜移動サービス協議会」によって維持管理されています。開国博時の幹事会社や公益財団法人横浜市緑の協会の支援をもとに活動を進め、「一般社団法人横浜みなとみらい21」からはタネや苗の支援をしていただいています。隣接するホテルは、当初より協力いただき駐車場に園芸道具の収納場所を提供。それによって重い道具等を自宅から持っていく必要がなくなりました。今後、ロープウェイで乗降する観光客の方達とのワークショップの開催など、周辺の企業ともいろいろな連携ができることを期待しています。

だれでも参加できる花壇の手入れ

月2回の作業日には、近隣の自治会や福祉作業所、保育園の子供たちが植替えや水やりに来ています。作業日以外にも水やりなど、気づいた時に手入れをしているそうです。車椅子の方々には貴重な屋外活動であり、子供たちにとっては車椅子の方と交流する機会ともなっています。花壇の手入れをしていると、通りすがりの人が手伝ってくれることもあります。花の好きな人には土に触れることができる魅力的な場です。「花壇のボランティアはいつでも大歓迎！」とのことです。

花時計から未来へ

2021年4月に桜木町駅から花時計のあるところまでロープウェイが開業。この花時計の花壇と活動の様子をロープウェイを利用する方々、そして駅から散策する方々の目にとまる機会が増えました。今後は、関内駅からこの花壇までの道のりを新たに花のアプローチで繋ぐ企画を考えているそうです。これによって駅と駅、花と花、そして人と人との繋がりがさらに発展していくことになるでしょう。
開国博の記憶とみなとみらいのシンボルとして、企業、市民、行政が協働して美しい花壇を続けていってほしいと願っています。

ここにみどり税

地域緑のまちづくり事業では、「緑や花でいっぱいの街をつくりたい」という地域の思いを実現するため、計画づくり、花や木の植栽、維持管理などにみどり税を活用して、緑のまちづくりに地域と協働で取り組んでいます。

横浜みどりアップ 葉っぴー

②、③維持管理活動の様子　④花壇に咲くマリーゴールド　⑤多くの人の目に留まる立地
⑥園芸道具　⑦花時計を中心に自然と交流が生まれる

みなとみらい21新港地区の地域緑のまちづくり

みなとみらい21地区などの都心臨海部では、これまでも様々な場所で地域が連携して緑や花によって街を彩る取組が進められています。緑や花で彩られたみなとみらいにぜひお越しください。

①アニヴェルセルみなとみらい横浜（16街区）での緑化　②マリン&ウォーク横浜（4街区）での緑化
③グランドオリエンタルみなとみらい（11-2街区）での緑化　④新港中央広場（8街区）での緑化

地域緑のまちづくり実施一覧

旭区 若葉台もみじ自治会周辺地区

磯子区 洋光台五街区周辺地区

港北区 綱島西地区

中区 山下公園通り地区

2021年4月現在

地域緑のまちづくりについてはこちら
https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/midori-koen/midori_up/3ryokuka/chiikimidori/chiikimidori2.html
問合せ先：横浜市環境創造局みどりアップ推進課（緑化推進担当）　電話番号：045-671-3447　E-mail: ks-ryoka@city.yokohama.jp

横浜みどりアップ計画とは？

緑豊かな環境を将来に残すために、市民と一緒に緑を守り、つくり、育てていく計画。財源の一部として、「横浜みどり税」を活用しています。

横浜みどりアップ計画市民推進会議とは？

横浜みどりアップ計画について評価、提案、市民への情報提供をする、市民参加の組織です。

Yokohama みどりアップActionとは？

みどりアップの現場を市民目線でレポートし、その場へ「行ってみよう」「見つけてみよう」と思えるような緑の魅力をお伝えします。私たち市民委員と一緒に緑のAction（行動・活動）を起こしましょう!!
※令和元年度に「みどりアップQ」からリニューアルしました。

市民推進会議広報誌

ご意見・ご感想をお待ちしています！

みどりアップActionについて、ご意見・ご感想、取り上げてほしい特集テーマなどのご要望をお待ちしています。いただきましたご意見・ご要望は、今後の発行の参考にさせていただきます。

詳しくはこちら！

YokohamaみどりアップAction 第6号
（旧みどりアップQ）（市民推進会議広報誌第41号）令和4年2月発行
編集：横浜みどりアップ計画市民推進会議広報・見える化部会
発行：横浜みどりアップ計画市民推進会議事務局

問合せ
横浜市環境創造局政策課（事務局）
TEL: 045-671-4214　FAX: 045-550-4093
E-mail: ks-mimiplan@city.yokohama.jp

横浜みどりアップ計画
市民推進会議広報誌

Yokohama みどりアップ Action

市民が発信
Vol.7
2022.10

市民農業大学講座で学ぶ「みどり」の助っ人

農や緑を支える人材の育成支援

緑を守りつくるため、横浜市では市民が活動しています。みどりアップ計画の3つの柱のうち「農」と「都市の緑と花」の助っ人をめざして、市民が学ぶ場が市民農業大学講座です。講座の様子と熱心な受講生の声を取材しました。なお、計画のもう一つの柱「森」を担う人材育成については次号で特集する予定です。　文: 高橋 秀忠、村松 晶子

市民農業大学講座とは？

野菜や果樹、草花、植木の栽培管理などの基礎を学び、座学で得た知識を実践しながら、栽培技術を身に付けることができる、横浜市主催の有料講座です。

受講生は30人。1年目は、主に保土ケ谷区にある「環境活動支援センター」での講座（35回）。2年目は、市内の生産農家での農作業実習（10回）になります。

※実習回数は年度により異なる場合があります。

詳しくはこちら！

①座学で当日のカリキュラムを学びます

楽しみながら農業を学んでいます

取材時は、1年目の受講生がトマトやナスなどの収穫、ニンジンの種まき、花壇の管理を4グループに分かれて、和気あいあいとした雰囲気で実習していました。

花壇の植栽計画は、各グループが話し合い、作成します。春は春夏の草花、秋は秋冬の草花による個性豊かな花壇が出来上がります。

受講のきっかけは様々で、

- ボランティア活動の中でさらに知識を深めたい
- 市内に転入してから、程なくして「横浜農場」※を知り農業について学べることに心が動いた
- 昔やっていた花の手入れを再開したい

など、横浜の緑を、さらに大事にしたい思いが伝わってきました。

中には、新規に農業参入を目指し横浜ブランドの野菜を作りたい、と意気込んでいる人もいました。どなたも生き生きとした表情が印象的でした。

※「横浜農場」とは、農に関わる生産者や市民、農地・農景観、農業生産活動など"横浜らしい農業全体"を一つの農場に見立て、横浜の食や農のブランド化や魅力発信を目指す言葉です。

②種まきの事前準備

③トマトの収穫方法実習、④プロも使う種まき機を使用したニンジンの種まき実習、
⑤⑥育成した野菜や花、⑦花壇の植栽管理実習、⑧ナシの袋掛け実習

今後の活躍に期待！

2年間の受講の後は「農と緑の環境リーダー」として、農作業の手伝い（援農）や、公園・緑地でのボランティア活動などの場で活躍しています。

すでにボランティア団体や、シルバー人材センターに登録している人もいて、さらに活動を広げることが期待できます。「援農を希望するけれど、農家が受け入れてくれるか心配」という声もあり、修了生と農家との十分な橋渡しが大事だと思います。

修了生の自主組織『はま農楽（のーら）』

市民農業大学の修了生たちが交流・技術・情報交換を深め、援農、緑化、農地保全などの活動を進めるために「はま農楽（のーら）」という自主組織を設立しています。110人ほどの会員で、花班、野菜班、果樹班で、それぞれ毎週フォローアップ研修を行い、収穫祭や収穫体験などをしています（新型コロナウイルス感染症の影響で中止もありました）。

援農については、昨年度は農家からの要望に応えて、延べ日数で、野菜942日、花卉（かき）128日、果樹1,342日の手伝いをしたそうです。横浜のような大都市では、市民が農家を手伝う形の援農が進むと良いと思います。「はま農楽」の活動に、今後も期待します。

はま農楽
ホームページはこちら

ここがみどりアップ計画

農とふれあう場づくりとして、市民が農を楽しみ支援する取組を進めています。市民農業大学講座以外にも、子ども向けの農体験教室や、家族で参加できる農体験講座を、市内各地の水田や畑などで開催しています。

横浜みどりアップ 葉っぴー

環境活動支援センターって こんなところ

市民農業大学講座を開催している環境活動支援センターでは、子ども(小学生)とその家族を対象に農作業を体験できる「家族で学ぶ農体験講座」など様々なイベントも開催しています。

また、森の情報を発信し、魅力を伝える「交流スペース」や数十種類のハーブが見られる「ハーブガーデン」など見所が満載です。

ぜひ、一度「環境活動支援センター」に足を運んでみてください!

[所 在 地] 保土ケ谷区狩場町213
[アクセス] 最寄りのバス停は「児童遊園地前」・「児童遊園地入口」・「権太坂上」です。各鉄道駅からの案内はこちらからご確認ください。

案内・アクセスはこちら

市民推進会議広報誌・バックナンバー公開中!

市民推進会議広報誌のバックナンバーを横浜市のHPで公開しています。
市内の畑についてレポートしたナンバーもあるので、ぜひアクセスしてみてください。

詳しくはこちら!

横浜みどりアップ計画とは?

緑豊かな環境を将来に残すために、市民と一緒に緑を守り、つくり、育てていく計画。財源の一部として、「横浜みどり税」を活用しています。

横浜みどりアップ計画 市民推進会議とは?

横浜みどりアップ計画について評価、提案、市民への情報提供をする、市民参加の組織です。

Yokohama みどりアップActionとは?

みどりアップの現場を市民目線でレポートし、その場へ「行ってみよう」「見つけてみよう」と思えるような緑の魅力をお伝えします。私たち市民委員と一緒に緑のAction(行動・活動)を起こしましょう!!
※令和元年度に「みどりアップQ」からリニューアルしました。

市民推進会議広報誌

ご意見・ご感想をお待ちしています!

みどりアップActionについて、ご意見・ご感想、取り上げてほしい特集テーマなどのご要望をお待ちしています。いただきましたご意見・ご要望は、今後の発行の参考にさせていただきます。

詳しくはこちら!

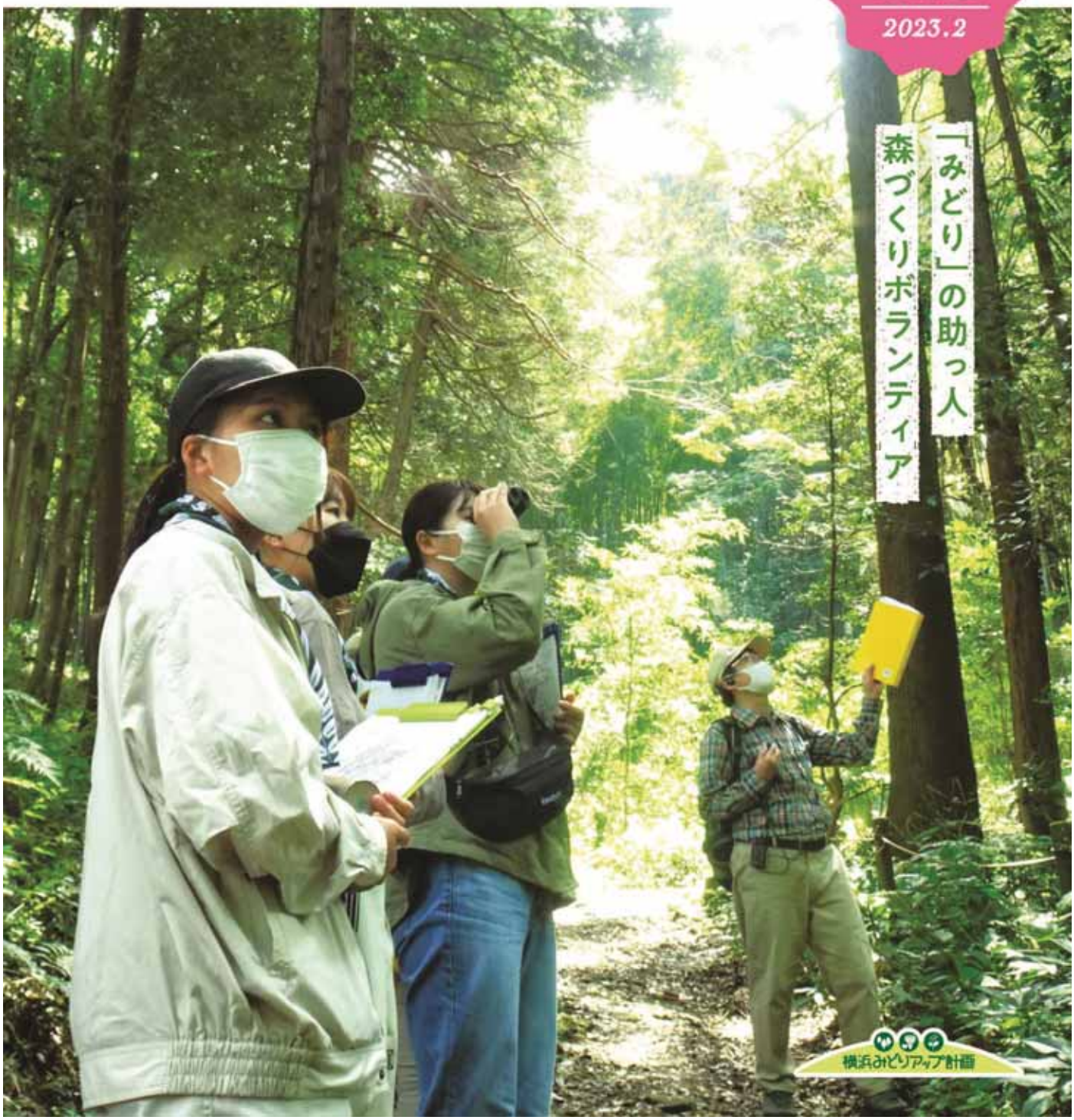
YokohamaみどりアップAction 第7号
(旧みどりアップQ)(市民推進会議広報誌第42号)令和4年10月発行
編集: 横浜みどりアップ計画市民推進会議広報・見える化部会
発行: 横浜みどりアップ計画市民推進会議事務局

問合せ
横浜市環境創造局政策課(事務局)
TEL: 045-671-4214 FAX: 045-550-4093
E-mail: ks-mimiplan@city.yokohama.jp

横浜みどりアップ計画
市民推進会議広報誌

Yokohama みどりアップ Action

市民が発信
Vol.8
2023.2



①森歩き、②「森の断面図」実習の様子、③樹木の説明

「横浜の森」を感じる

横浜の森は、愛護会や森づくりボランティアを始め、多くの人々の支えがあって維持管理されています。森を育む担い手の人材育成を行っている研修は内容もレベルも様々ですが、今回は、数ある研修の中でも初心者向けのふたつの"森づくり研修"についてご紹介します。

文:奥井奈都美、高田房枝

まずはここから「森づくりボランティア入門講座」

「森づくりボランティア入門講座」は事前のオンライン講座、横浜の森に詳しい講師による座学、実際に森を歩きながら生態系や保全計画を学ぶフィールドワーク、そして道具の使い方や森づくりを体験する2～3日の講座です。「横浜の森ってどんなところ?」「森づくりって何をするの?」「森づくりに参加してみたい」などの声に応える研修講座です。

令和4年10月上旬に緑区の「にいはる里山交流センター」で開催された講座の1日目に同行し、「横浜の森づくり」に関心を持った20代から60代までの14名を取材しました。参加者は環境を学んでいる大学生や、森づくりボランティアを経験されている方など、中には県外からお越しの方もいました。

講座では、横浜市環境活動支援センターから緑地保全制度や森づくりボランティア制度など横浜の森づくりの概要について、丁寧な説明がありました。その後、多様な市民参加の森づくりマネジメント」と題して、長年森づくりに関わる講師から「森づくりの魅力、里山の昔と今の違い」について話がありました。

市民とともに問題解決する森づくりや保全、里山へのかかわり方などを聞き、身近なテーマであることがよく伝わりました。

座学

森の観察と調査

道具の使い方と森づくり体験

ここにみどり税

活動の基盤となる森の保全に加え、森づくり活動に取り組む市民や団体を対象に、活動のための知識や技術に関する研修を実施し、森づくりを担う人材を育成しています。

横浜みどりアップ 葉っぴー

「森づくりボランティア」とは?

市内の森で森づくり活動に個人で参加できる18歳以上の方を対象にしたボランティア制度です。登録いただくと、研修の案内や活動予定をお知らせいたします。

森について学んでみたい

もっと森の情報を知りたい

個人登録申請

制度や申請方法はこちら▶

登録して森づくりボランティアになると

- 「森づくり研修の案内」や「よこはまの森ニュースレター」が届く
- 「森づくり体験会」への参加
- 森づくり活動団体加入への足掛かり

④森づくり体験（伐採）、⑤森づくり体験（除草）

参加のきっかけは？

- 育ててくれた横浜の森への恩返しのため！
- 生まれ育った横浜の自然について知りたかった。
- 社会経験の一環に。
- ボランティアをしたいと思っていて、たまたま森に興味があったので。
- 里山や動植物に興味があって。
- 気候変動を止めるために何かしてみたい。
- もっと森への知識を深めたい！
- 森の保全管理方法を学びにきました。

などなど

参加してみて！

- 実際の森の中で、森や植物の話を聞けて勉強になった。
- 講義で聞いたことをすぐ観察できる機会は貴重。
- 森を歩くことで整備していることに気づけた。
- 今後の課題などを知ることができた。
- 活動の幅が広いので楽しく活動できそう。
- 森林を大切に残していきたい気持ちが強くなりました。

などなど

初開催！大学生限定「横浜市の森づくり塾！」

若い世代の森への関心を高めるために、大学生版の「森づくりボランティア入門講座」として、初めて実施した「横浜市の森づくり塾!」の2日目が令和4年9月中旬に緑区の新治市民の森で、開催されました。1日目の座学を終え、2日目は森に入って樹林の様子や森の保全計画を学びます。

森に入ってすぐクヌギなどの高木の群れとその手前に群生するホップに出迎えられました。森を進み足元に目をやると、コナラやクヌギなどの実（ドングリ）から発芽したかわいい葉っぱが生えています。人の手が行き届いた雑木林は明るく、ところどころに伐採された樹木の切り株からは萌芽が育ち、こうして森林の若返りを図っています。

一時間ほど歩きゴール地点では講師のアドバイスのもと、観察した樹林地の階層や環境について、図面に落とし込む作業を体験しました。測量機器を使わずに三角形の模型を使って樹木の高さを測る作業など、実践的な学びも多くありました。

参加した学生は、大学で造園や里山について研究をしているなど、様々な視点から"緑"に関心を寄せています。また市内に住む学生からは、「みどり税の必要性を改めて感じた」という声もありました。

いろいろあります！「森づくり研修」

研修内容

ベーシック	森づくり概論	森づくり概論Ⅰ	森づくり概論Ⅱ	保全管理計画	意見交換会交流会	フォローアップ研修
	安全管理	安全管理（装備・身体）	安全管理（動植物）	安全管理（救急・保険）	安全管理（KY事故事例）	森づくり体験会
	自然観察	自然観察（野草・樹木）	自然観察（昆虫）	自然観察（野鳥）	自然観察（冬芽）	インタープリター養成講座
	道具の使い方	カマ・ナタ	ノコギリ剪定バサミ	ロープワーク	道具の手入れ	※左記のテーマに沿うもの
	作業実習Ⅰ	草刈ササ刈り	剪定・伐採枝払/玉切り	竹伐採枝払/玉切り	ロープシステム	
スキルアップ	計画・調査	モニタリング調査	植生・環境を読むⅠ	植生・環境を読むⅡ	作業計画の作り方	フォローアップ研修
		調査・作業（野鳥）	観察・作業（樹木）	観察・作業（昆虫）	観察・作業（野草）	森づくり体験会
	作業実習Ⅱ	中木伐採Ⅱ（ロープ使用）	竹伐採Ⅱ（ロープ使用）	ロープシステム	湿地・水辺の管理	インタープリター養成講座
	間伐材活用	粗朶垣	土留め作成（発生材活用）	竹垣/竹筒竹発生材活用	道具作成発生材加工	※左記のテーマに沿うもの
	広報団体間交流	チラシの作り方	広報スキル	団体受入マナー	意見交換会交流会	
チャレンジ	団体・組織マネジメント	作業/インベントリー養成	安全管理者養成	団体・組織マネジメント	アドバイザー養成	インタープリター養成講座 ※左記のテーマに沿うもの

※研修は上記内容を組み合わせて実施します。

横浜市では森に関する知識や安全に活動を行っていただくためにさまざまな研修を行っています。

森に関する知識、技術を学んでみてはいかがでしょうか。

※研修を受講するには森づくりボランティアの登録が必要です。

道具の使い方研修

自然観察講習会

森づくりボランティア以外にも、森を守る「市民の森」制度があります。4号で特集していますので、あわせてご覧ください。

【問合せ先】
横浜市環境創造局みどりアップ推進部
環境活動支援センター
TEL:045-711-0635
E-mail:ks-shiencenter@city.yokohama.jp

具体的な研修内容はこちら

今回の研修場所

「新治市民の森」

指定面積が約68haもあり、市内2番目の大きさを誇る市民の森です。里山や谷戸の風景が残されており、四季折々の風景を見ることができます。

北側には「にいはる里山交流センター」があり、ウェルカムセンターとして市民の森や自然の情報等の発信を行うだけでなく、自然観察や里山の暮らしを体験する教室などを催しています。

所在
緑区新治町、三保町

アクセス
JR 横浜線十日市場駅南口より徒歩15分

駐車場
市民の森駐車場
（愛護会が管理している駐車場です。）
土、日、祝のみ利用可/
利用時間:午前9時～午後5時

◀散策マップはこちら
「新治市民の森愛護会」ホームページ
http://niiharu.la.coocan.jp/map/index.html

「森づくりボランティア活動証明」配付中

実際の森で樹木の手入れなどの活動を体験できる「森づくり体験会」を定期的に開催しています。

森づくり体験会に参加すると、ボランティア活動した証明として「森づくりボランティア活動証明」カードがもらえます！

森づくり体験会の詳細・申込はこちら
「NPO よこはま里山研究所NORA」ホームページ
https://nora-yokohama.org/join/?cat=154

横浜みどりアップ計画とは？

緑豊かな環境を将来に残すために、市民と一緒に緑を守り、つくり、育てていく計画。財源の一部として、「横浜みどり税」を活用しています。

横浜みどりアップ計画市民推進会議とは？

横浜みどりアップ計画について評価、提案、市民への情報提供をする、市民参加の組織です。

Yokohama みどりアップActionとは？

みどりアップの現場を市民目線でレポートし、その場へ「行ってみよう」「見つけてみよう」と思えるような緑の魅力をお伝えします。私たち市民委員と一緒に緑のAction（行動・活動）を起こしましょう!!
※令和元年度に「みどりアップQ」からリニューアルしました。

市民推進会議広報誌

ご意見・ご感想をお待ちしています！

みどりアップActionについて、ご意見・ご感想、取り上げてほしい特集テーマなどのご要望をお待ちしています。いただきましたご意見・ご要望は、今後の発行の参考にさせていただきます。

詳しくはこちら！

YokohamaみどりアップAction 第8号
（旧みどりアップQ）（市民推進会議広報誌第43号）令和5年2月発行
編集：横浜みどりアップ計画市民推進会議広報・見える化部会
発行：横浜みどりアップ計画市民推進会議事務局

問合せ
横浜市環境創造局政策課（事務局）
TEL: 045-671-4214　FAX: 045-550-4093
E-mail: ks-mimiplan@city.yokohama.jp

横浜みどりアップ計画
市民推進会議広報誌

Yokohama みどりアップ Action

市民が発信
Vol.9
2024.03

つなげていこう
みどりのAction

里山ガーデンはこんなところ

住所: 横浜市旭区上白根町1425-4(よこはま動物園ズーラシア隣接)

「ガーデンネックレス横浜」の会場の一つで、横浜動物の森公園エリア内の、森に囲まれた静かな場所に立地しています。

毎年春と秋に「里山ガーデンフェスタ」を開催しており、市内最大級、約10,000m²の大花壇が横浜の花で彩られます。

2023年秋の「里山ガーデンフェスタ」では、「躍動の丘」をテーマにセンニチコウやコスモス、サルビアなどで彩られた、華麗でダイナミックな景色の広がる大花壇が公開されました。

周辺には森が楽しめるアウトドアパーク「フォレストアドベンチャー・よこはま」や「よこはま動物園(ズーラシア)」があり、子どもから大人まで楽しめる場所となっています。

※大花壇は春と秋に期間限定で公開しています。

最寄り駅から里山ガーデンまでのバスアクセス

- 相鉄線「鶴ヶ峰」駅、「三ツ境」駅 / JR横浜線・横浜市営地下鉄グリーンライン「中山」駅から → バスで約20分 → ❶「よこはま動物園」バス停下車 → シャトルバス※里山ガーデンフェスタ開催中のみ運行 / または徒歩(約15分) ※土休日は❶よこはま動物園北門まで延伸している路線があります。 → 里山ガーデン
- 相鉄線「鶴ヶ峰」駅から → バスで約20分 → ❷「西ひかりが丘」バス停下車 → 徒歩 (東入口まで約5分)(正面入口まで約15分) → 里山ガーデン

2023年秋の里山ガーデン

ここがみどりアップ計画

みなとみらい21地区や里山ガーデンなど、多くの市民が訪れる場所で「都心臨海部等の緑花による魅力ある空間づくり」を進めています。地域や施設の特性に合わせた季節感ある緑花空間をお楽しみいただけます。

横浜みどりアップ 葉っぴー

ガーデンネックレス横浜

「ガーデンネックレス横浜」は「ガーデンシティ横浜」を推進するリーディングプロジェクトです。

花や緑による美しい街並みや公園、自然豊かな里山など、横浜ならではの魅力を発信することで多くの方を横浜に呼び込み、まちの活性化や賑わいの創出につなげます。

また、市民の身近な場所で花や緑に関する取組を全市的に進め、花と緑にあふれる環境先進都市横浜の実現を目指します。

2023年春の山下公園

里山ガーデンで考える
みどりアップ計画のこれまでと今後

横浜のみどりへの取組は1859年の開港以降に山手公園や横浜公園が整備されたことから始まり、時代の変遷による急速な都市化に対応する中で様々な取組が行われてきました。横浜みどりアップ計画もその1つです。

そこで、このみどりアップ計画に計画段階から15年間関わってきた橋本健さんをお訪ねし、里山ガーデンでみどりアップ計画のこれまでと、今後の展望についてお話を伺ってきました。

文：奥井 奈都美、国吉 純、髙田 房枝、髙橋 秀忠、村松 晶子、望月 正光

みどりアップ計画で これまで成し遂げてきたこと

みどりアップ計画は「緑豊かなまち横浜」を次世代に継承するために、樹林地、農、緑花の3つの柱において、目標の実現を目指してきました。みどりアップ計画により、横浜の緑は守られてきました。その成果は、市内各地に多くの市民の森が開園され、保全された水田を見ることができ、市民農園が各所に開設され、街なかに花や木が植えられるなど、私たちも身近に目にしています。

橋本さんはこの計画に当初からずっと関わってきた思いを次のように語られました。

『みどりアップ計画を15年続けてこられたのは、まず多くの市民の皆様の協力があってこそのことです。森や農地のほとんどは民有地ですから、多くの地権者の方々の協力が不可欠でしたし、取組のすべては行政というよりは、企業や団体、そして多くの市民の皆様が協力して進め、まさに協働型公共事業といえる素晴らしいものになりました。

市民のみどりへの大きな期待は、計画策定時の意識調査で、横浜みどり税導入への賛成が多かったことにも表れています。現在の市に求める政策でも、コロナ下で身近なみどりを再認識した面もあって、「豊かな自然がある」が上位であり、多くの市民にみどりの保全が支持されています。みどりアップ計画を進めてきて本当に良かったと強く思っています。

近年、地球環境を守るためにSDGsや脱炭素の取組が進められています。世界的に新しい概念が打ち出されて、それをもとにした取組も広がってきています。

その中の1つ、NbS（Nature based Solution）は、自然に根差した地球環境問題解決策を意味します。

2009年から始めた「みどりアップ計画」で実施している取組は、NbSとほぼ同じです。世界の動向に先立って緑の取組を進めてきたことになります。これは驚くべきことです。このような点も市民・企業の皆様に伝えたいと思います。』

公益財団法人横浜緑の協会 理事長
ガーデンネックレス横浜実行委員会 委員長
橋本 健 氏

横浜市職員として、横浜みどりアップ計画に第1期から携わる。2023年度からは（公財）横浜市緑の協会の理事長に就任し、ガーデンネックレス横浜を始めとした横浜の花や緑に関する多くの取組に関わっている。

横浜市内産の花々

お話を伺って、多くの皆様に支えられてきたこと、大きく期待されていることを念頭に進めてこられたという橋本さんの思いに感銘を受けました。それと同時に、横浜市民の力は素晴らしいと思いました。森を守る愛護会や森づくりボランティア、農地と農業文化を守る農業ボランティア、花と緑のまちづくりを担うグループなど、多くの市民がみどりの活動をしています。そのような市民を支援する人材育成プログラムや助成金も用意されています。これからも市民の力を引き出して、行政と共に横浜市のみどりが守られていくことを願っています。

2023年秋の里山ガーデン

ガーデンネックレス横浜の取組

ガーデンネックレス横浜は、2017年の「全国都市緑化よこはまフェア」後に始まりました。みなとエリアと里山ガーデンで花と緑を楽しむことができます。春のみなとエリアは、港町よこはまの景観とともに桜やチューリップ、バラといった美しい花々を楽しめ、街を歩く人々の心をウキウキさせてくれるとともに、横浜の"映えスポット"としても浸透しているように思えます。

全国都市緑化フェアは40年の歴史がある全国的なイベントです。他県では大きな公園を会場にして開催することが多いのですが、横浜では、街なかの複数の公園等を会場にして繋いでいくという形が取られました。港町横浜のたくさんの場所が花と緑を楽しめるスポットとなって街歩きを楽しめました。この花と緑の"繋がり"がネックレスを表現しているのですね。

その取組が好評であったため、ガーデンネックレス横浜はその後も継続して毎年開催され、現在に至ります。横浜の花と緑は市民の皆さんの暮らしの中にあり、愛され、親しまれています。

そしてさらに、このネックレスは未来へと繋がります。2027年に開催される国際園芸博覧会「GREEN×EXPO 2027」です。ここに横浜の美しい自然、花と緑が集結し15年継続してきたみどりアップ計画の成果を見ることができると楽しみにしています。

ガーデンネックレス横浜 マスコットキャラクター ガーデンベア(みなとエリア)

里山ガーデンを通じた花育・食育

ガーデンネックレス横浜の会場の一つ、里山ガーデンのメインとなるのが大花壇です。大花壇は緩やかな傾斜を歩きながら花々を鑑賞できるようになっていて、街なかにはない自然豊かな里山の背景をバックにどの角度から見ても美しい景色を堪能することができます。毎年楽しみに訪れている方も多いことでしょう。

2023年秋のテーマは、浮世絵のような紫や橙色など色とりどりな秋の植物約100品種で構成された「躍動の丘」。いま人気のシックな色合いのグラス類や様々な種類を誇るサルビア、丸みのあるかわいい形のジニア類などが植っていました。また、寄附に協力するともらえる「秋の花図鑑」を手に歩けば、ガーデンに咲いている花の名前などを確かめながら楽しむことができます。

里山ガーデンフェスタ　横浜市内産の野菜も味わえるキッチンカー

開期中にはボランティアによるガーデンツアーがあり、同じグループの参加者同士で助け合いながら、そのグループなりの花畑の楽しみ方をみつけていました。また、花育としてアンバサダーでもある三上真史さんが「花探し」シートを片手に子ども達とガーデンを巡るイベントも行われました。

日替わりで出店する様々なジャンルのキッチンカーでは、横浜で採れた新鮮で旬な野菜等を使った地産地消メニューも味わうことができたそうです。

花苗のほぼ9割が市内の花き農家さんが1年以上前から準備していたとのこと。横浜市内には野菜や酪農だけではなく、美しい花を作る花き農家さんがたくさん存在していることも知る機会となりました。2027年のGREEN×EXPO 2027でも、この里山ガーデンの大花壇を訪れた方や子ども達が、花や植物、自然を体感し、学ぶことで世界各国の方々に横浜の花や自然を語り伝えていく伝道者としての準備が着々と行われていると感じました。

公益財団法人横浜市緑の協会とは？

昭和51年に任意団体「横浜市公園協会」として発足し、平成24年に「公益財団法人横浜市緑の協会」となりました。
緑のまちづくりを推進するとともに、市内3つの動物園、横浜山手西洋館、三ツ沢公園等の公園・施設の指定管理など、様々な事業を市民・企業との連携を大切に取り組んでいます。

詳しくはこちら

横浜の緑の今後
～GREEN×EXPO 2027に向けて～

まとまりのある樹林地や農地がある横浜市の緑の10大拠点の1つ、大池・今井・名瀬地区の中に、約242haの旧上瀬谷通信施設地区があります。

GREEN×EXPO 2027はこの地区のうち100haを利用して開催されます。GREEN×EXPO 2027の「GREEN」は「植物」「花」「緑」を総称する言葉で、「自然」、「環境にやさしい」という意味を持ちます。気候変動など国際社会が抱える問題、我が国を取り巻く問題などについて、花・緑・農・食・自然エネルギーの面から展望します。

会場では、自然環境の特性を活用し、水と緑と風の道を効果的に取り入れ、樹木の保全や雨水浸透を生かした木陰や道路、花壇、施設など、自然環境が有する多様な機能を生かすグリーンインフラにより来場者にとって安らぎや心地よさを感じるでしょう。

他にも、横浜市では、循環型社会への貢献として、下水道資源を農業に活用する実証事業がスタートしました。市内で発生する下水汚泥から植物の育成に必要なリンを回収し、肥料原料として活用します。このプロジェクトでは、この肥料の本格利用開始もGREEN×EXPO 2027からとのこと。横浜生まれの肥料の普及が進めば、肥料の輸入に過度に頼らない、資源循環を生み出すことができるでしょう。

GREEN×EXPO 2027は科学技術的なアプローチに加え、自然と人間の共生を目指す新しいアプローチを具体的に示す場だと、橋本さんは次のように語ります。

『横浜では市民力や企業・地権者の方々、JA横浜の協力のもと、花と緑の取組を積極的に、先進的に進めてきました。GREEN×EXPO 2027では、GXやグリーンイノベーションによる解決策を示していくことはもちろんのこと、市民・企業の皆様とともに進めてきた「みどりアップ計画」や「ガーデンネックレス横浜」の成果を、協働しつつ華々しく発信する。そして参加した皆さんがさらに何かを実践し、つながりを広げていく。それが非常に楽しみなのです。』

GREEN×EXPO 2027は期間限定イベントですが、開催後は、本博覧会の理念や取組を継承する公園として「ガーデンシティ横浜」実現の一翼を担い、自然とともにあるグリーンシティ横浜のレガシーとなるでしょう。

最後に… Actionを起こそう！

橋本さんから現在世界が目標とする30％以上の健全な生態系の保全（30by30）について、既に17年前の「水と緑の基本計画」（2006年策定）に掲げられていたと伺いました。将来を見据えた綿密な計画を横浜市民として誇りに思えました。また、橋本さんは、GREEN×EXPO 2027開催後のレガシーとして行政と市民・企業の皆様の間を取り持ちたいとも述べられていましたが、緑の取組には市民一人ひとりの思いや行動が不可欠です。

「みどりアップ計画」の目標達成のための3本の柱にはActionを起こせるメニューが多く用意されています。「森を育む」では、残された樹林地の保全について学び、活動する森づくりボランティアへの参加や、市民の森へ行ってみるのも良いでしょう。「農を感じる場をつくる」では農業体験や、収穫体験への参加や市民農業大学講座の受講もあります。地産地消で直売所へ行ってみると横浜で収穫された新鮮な野菜や果物に巡り合えます。「緑や花をつくる」では、地域の方と樹木や花を植えることもできます。2027年開催されるGREEN×EXPO 2027に向けて市民・企業・行政が一体となってActionを起こせば世界に横浜の緑の取組を発信できるでしょう。今日から緑豊かなまちづくりにActionを起こしましょう!!

里山ガーデンでの取材の様子

はじめてみよう！

市民推進委員おすすめActionメニュー

- 森づくりボランティアはこちら！
- あぐりツアーはこちら！
- 地域緑のまちづくりはこちら！
- GREEN×EXPO 2027情報はこちら！

最新情報はこちらから　横浜 GO GREEN（X/旧Twitter）　横浜農場（農業振興課）（インスタグラム）

横浜市 緑に関わる計画の変遷

1970 1980 1990 2000 2010 2020 2030

1980 公園数1000か所を超える

1994 公園数2000か所を超える

2017 第33回全国都市緑化よこはまフェア

2027 GREEN×EXPO 2027

1973 緑の環境をつくり育てる条例

1981 緑のマスタープラン

1984 公園・緑地等の管理基本計画

1997 緑の基本計画→2006 水と緑の基本計画

2009 横浜みどり税

2009 横浜みどりアップ計画

2011 生物多様性横浜行動計画

2015 横浜都市農業推進プラン

※これまでのみどりアップ計画の実績の概要はこちらからご覧ください。

横浜みどりアップ計画［2024-2028］を策定しました！

現行の「横浜みどりアップ計画」は、2023（令和5）年度末までの計画ですが、緑の保全や創出は長い時間をかけて継続的に取り組むことが必要です。そこで、これまでの取組の成果などを踏まえ、2024（令和6）年度以降に重点的に取り組む「横浜みどりアップ計画［2024-2028］」を策定しました。

計画の理念　「みんなで育む　みどり豊かな美しい街　横浜」

横浜みどりアップ 葉っぴー

横浜市でGREEN×EXPO 2027を開催します

2027年の3月から9月に、横浜市で国際園芸博覧会 GREEN×EXPO 2027を開催します。

圧倒的な花と緑で皆様をお迎えするとともに、地球環境の基盤である自然、植物への理解を深め、私たち人間もその一部としてともに暮らしていく社会を目指し、「自然・人・社会が共に持続するための最適解」を示します。

会場となるのは、旧上瀬谷通信施設です。横浜市の郊外部（旭区・瀬谷区）に位置するこの土地は、2015年に米軍から返還され、2020年3月には「旧上瀬谷通信施設土地利用基本計画」が策定されました。

GREEN×EXPO 2027は、そこで示された「公園・防災地区」の全域と「観光・賑わい地区」の一部、約100haを活用して開催されます。

GREEN × EXPO 2027 YOKOHAMA JAPAN

横浜みどりアップ計画とは？

緑豊かな環境を将来に残すために、市民と一緒に緑を守り、つくり、育てていく計画。財源の一部として、「横浜みどり税」を活用しています。

横浜みどりアップ計画 市民推進会議とは？

横浜みどりアップ計画について評価、提案、市民への情報提供をする、市民参加の組織です。

Yokohama みどりアップActionとは？

みどりアップの現場を市民目線でレポートし、その場へ「行ってみよう」「見つけてみよう」と思えるような緑の魅力をお伝えします。私たち市民委員と一緒に緑のAction（行動・活動）を起こしましょう!!

※令和元年度に「みどりアップQ」からリニューアルしました。

市民推進会議広報誌

ご意見・ご感想をお待ちしています！

みどりアップActionについて、ご意見・ご感想、取り上げてほしい特集テーマなどのご要望をお待ちしています。いただきましたご意見・ご要望は、今後の発行の参考にさせていただきます。

詳しくはこちら！

YokohamaみどりアップAction 第9号
（旧みどりアップQ）（市民推進会議広報誌第41号）令和6年3月発行
編集：横浜みどりアップ計画市民推進会議広報・見える化部会
発行：横浜みどりアップ計画市民推進会議事務局

問合せ
横浜市環境創造局政策課（事務局）
TEL: 045-671-4214　FAX: 045-550-4093
E-mail: ks-mimiplan@city.yokohama.jp

横浜みどりアップ計画

森づくりボランティアしませんか？

ヨコハマ「森づくり体験会」

参加者募集

「森づくり体験会（ボランティア）」に参加して、身近な森をもっとよく知り、まもる活動を一緒にしませんか？

横浜には、大都市でありながら多くの樹林地が残されています。良好な森を維持するためには、人の手による管理が必要で、管理が行き届かないために荒れてしまう森も少なくありません。

横浜には緑豊かな樹林地が多く残されています

良好に管理された森で散歩や森林浴を！

森づくり体験会とは？

「森でボランティアをしてみたい！」と思った方と、手入れを必要としている緑地との橋渡しをお手伝いするプログラムで、草刈りや小さな木の伐採等、森の管理の基本となる作業を行います。スタッフがついているので初心者でも安心してご参加いただけます。

こんな作業をします！

小さな木の間伐作業

ササ刈り作業

森づくり体験会に参加すると？？

ボランティア活動したことを『証明するカード』がもらえます！

さらに～

- 身近な森を守る活動ができます。
- 森づくり活動に必要な技術・知識が身に付きます。
- 市内で活躍する森づくりボランティアとの交流ができます！

森づくり体験会の詳細・申込はこちら！

※QR コードを読み込むか、URL にアクセスしてください。
URL：https://nora-yokohama.org/join/?cat=153
【森づくり体験会運営団体（よこはま里山研究所 NORA）のホームページにリンクしています】
※申込み先着順で定員になり次第申込み締め切りとなります。

開催日・場所等、最新情報が確認できます。

※森づくり体験会への参加には森づくりボランティアへの登録が必要です。（参加当日の登録も可）森づくりボランティア、登録方法についての詳細は裏面をご覧ください。

発　行　横浜みどりアップ計画市民推進会議 広報・見える化部会

問合せ　横浜市環境創造局政策課
電話 045-671-4214　FAX 045-550-4093
Eメール：ks-mimiplan@city.yokohama.jp

森づくりボランティアについて

横浜の森では、多くのボランティアの方たちが生き物の多様性や人の利用等に配慮した草刈り、間伐、生き物調査といった「森づくり活動」を行っています。横浜市はそのようなボランティアの方たちに、様々な支援を行っています。

※森づくりボランティアは、横浜市市民協働による森づくりに関する要綱に基づく制度です。

■登録条件は？

・18 歳以上の横浜市在住・在学・在勤の方

■森づくりボランティアに登録すると？

こんな支援が受けられます！

ニュースレターによる情報提供

よこはまの森ニュースレター

森づくり活動団体や森づくりグループの紹介、イベント等、森づくりに役立つ情報をお届けします。

森づくりに関する研修案内

自然観察講習会チラシ

森づくり体験会チラシ

森づくりに関する技術・知識を学ぶことのできる研修等の情報や森づくりを行っている団体の情報提供を受けることができます。

※体験会当日の登録もOK！

森づくりボランティア登録のながれ

①横浜市みどりアップ推進課ホームページから申請書をダウンロード

▽

②みどりアップ推進課に申請書提出（メール・FAX 可）

▽

③承認・登録完了

みどりアップ推進課 HP（森づくりボランティア　支援の仕組みと手続き）

https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/midori-koen/midori_up/1mori/volunteer/mori-youkou.html

横浜みどりアップ計画とは？

豊かな環境を将来に残すために、市民の皆さんと一緒に緑を守り、つくり、育てていく計画。財源の一部として、「横浜みどり税」を活用しています

横浜みどりアップ計画

横浜みどりアップ 葉っぴー

2024 年 12 月発行
横浜みどりアップ計画市民推進会議